

2005

KITE MANUAL

CONTRA • NITRO • CO2 • ELEMENT

(JAPANESE)

責任回避と仮定できる危険

以下の内容に同意できない場合、
この商品の使用を禁じます。

非常に重要な警告です

警告：安全のために必要な事柄です。以下の内容およびコンディションに同意できない場合、この商品の使用を禁じます。その際は梱包を開けずに商品の返却をお願い致します。また購入料金のすべてをご返却致しますので、購入したショップにお戻しください。このマニュアルにはインフォメーションを含めて参考になる事柄が記入されて

この商品をご使用になる前に、ユーザーズマニュアルを含むこの説明書を必ずお読みください

使用者が18歳以下の場合、両親または保護者に以下の項目とユーザーマニュアルを読んでもらう必要があります。レッスンを受け、インストラクターかマニュアルを読んだ者の監督下でしかこの製品を使用できません。

弊社ホームページではマニュアルのアップデートが記載されております

www.cabrinhakites.com

この製品の購入者／使用者（同一でない場合も含む）、ユーザー（ユーザーが18歳以下の場合には両親が保護者）は、この製品が危険を伴いユーザーに危険な状況をもたらすものであることを理解する必要があります。また購入者／使用者はこういった危険性を絶えず仮定して使用する必要があります。この製品を使用する前に購入者／使用者はユーザーマニュアルを熟読し、その内容を理解し、これに同意する必要があります。購入者／使用者によるこの製品の不注意な取扱いによって引き起こされた財産および怪我などの損害に関して、販売店には責任がありません。また、購入者／使用者は販売店にすべての責任を追求しないことを理解してください。カイトボーディングは成人向けのスポーツです。パワーカイトとそれにつながるライン、コントロール・エクイップメントは飛行している間、ユーザーや回りの人に危険をおよぼす可能性があります。カイトボーディングを行う際は真剣、慎重に行い、経験が浅いユーザーは経験豊富なカイトボーダーからのレクチャーを受けることをお勧め

致します。カイトの使用方法が正しくない場合は、ライダーおよび回りの人に深刻な怪我または最悪の場合には死に至らしめる可能性があります。電線や空港、道路の近くでカイトを使用しないでください。カイトのフライラインが人や物に触れないよう、注意してください。常に開けた場所でカイトを使用し、風や天候に留意し、特にオフショアや強風には注意が必要です。陸上で完全にカイトの操作ができるようになるまで、海上でカイトを使用しないでください。ライダー自身と回りの人のために、カイトの操作に慣れるよう、陸上で十分に練習を行ってください。カイトを使用する際の安全面の責任は全てライダー自身にあるということ、絶えず頭にいられてください。このスポーツを練習する際には自己の限界に留意し、無理をしないようご注意ください。水上でカイトを使用する際には、安全上必ず浮力体を身につけ、カイトとライダーをほどけないほどしっかりと繋がらないでください。カイトを飛ばすための目的、および浮力体としては使用しないでください。

警告 目次

イントロダクション

安全

安全に関する情報／安全のためのギア

風と海面、天候について

風の早見表

ライダーのレベルの認知／カイトボードに向いた場所

カイト全体の説明

レコン

大切な情報／コツ

安全ピン／エンゲージ／安全ピンの取り外し

レコンの操作方法／タップアウト

モードの変更

ランチモード／ライドモード

レコンシステムの重要なケア方法

レコンシステムの再取付

レコンシステムを使っでのリランチ

バイパス・リーシュ／コツ

セッティング

クイックリリース・システム(QRS)

クイックリリースの操作／再取付

セッティング ステップ1

パワーロック・コントロール・システムの装着／コツ

パワーロック装備品／操作方法

1.1 毎上に出る前にラインの長さをチェック

1.2 ラインの長さの調節方法

セッティング ステップ2

2.1 バテンに空気を挿入

2.2 リーディングエッジに空気を挿入

2.3 安全なカイトの取扱い

2.4 リーディングエッジから空気を抜く

セッティング ステップ3

コントロールラインの取付け

風下からランチングするためのセットアップ

風上からランチングするためのセットアップ

セッティング

カイトのチューニング／コツ

カイトボードの基本

使用可能なエリア

カイトのポジション、ゾーンとパワー

ステアリングとランチング、ランディング

カイトの操作方法

ランチングの準備

パートナーとのランチング

セルフ・ランチング

パートナーとのランディング

リランチング

リペア

フライイングラインの交換

カイトのファブリックのリペア

覚えておくくと便利なポイント

バテンのリペア

リーディングエッジのリペア

重要な情報

ビーチでのエチケット

カイトの取扱い

専門用語集



新しいカブリナ・カイトのご購入ありがとうございます。そしてカブリナの世界へようこそ。ご存知のとおりカイトボーディングの楽しさは世界中のあらゆる年齢の人々を魅了しています。もっともダイナミックに急成長している新種のスポーツのひとつということがいえるでしょう。

それと同時にしっかりとその特徴を理解し、節度をもって行われなければならないスポーツでもあります。そのためにカブリナではこのユーザーズ・マニュアルを配付しています。これは新しいカイトを購入されたライダーの方がカイトに対する知識を広め、安全に使用するために必要なものです。さらにセッティングやメンテナンスなど、新しいカイトを水上で楽しく長い間使っていたりするためのインフォメーションも多く記載してあります。

実際にカイトをご使用になる前にこのユーザーズ・マニュアルのすべてのページを熟読してください。また他人の道具でカイトに挑戦しないようご注意ください。これはライダー自身および周りの人の安全のためにも必要なことです。

安全に関する情報

カイトボーディングはいろいろな種目で、レベルに応じて楽しめる多様なスポーツです。しかし他のスポーツと同じようにリスクを伴っています。これからカブリナ・カイトを使用する際に覚えておかなければならない、安全上のキーポイントを紹介していきます。

- カイトやタッパアウトを伴ったレコンリリースやクイックリリース・システムといった安全システムに慣れ親しんでください。
- レコン装備のカイトはレコン装備のコントロールバー・システムとともに使用され、決められた操作方法に基づいて操作できるように確認してください。
- 常に安全システムを取り付けてカイトを用いてください。
- カイトおよびコントロールバー、ラインとライダーを離れないほど強く結ばないでください。
- カイトを飛行目的で使用しないでください。
- ブライダルラインやカイトに付属する全てのラインにテンションのかかった状態で、決してラインに触らないでください。
- 空気が入った状態で使用していないカイトは、必ず砂や何か重い尖っていない物を置いて安全を確保してください。充分と思われる以上に重たい物を置くことをお勧めします。（カイトの取扱い、情報の項参照）ライダーがいなくても空気が入ったカイトは飛ぶ恐れがあるので、じゅうぶんに自己や周りのものに注意を払ってください。突然カイトが飛行してしまった場合、周りの人に深刻な怪我を与え死に至らしめる可能性があります。
- 空気が入ったカイトに対する十分な訓練をしていない人に、ギアを貸さないでください。使用者は必ずこのユーザーマニュアルを熟読し、すべての項目に同意する必要があります。
- フライングラインや安全システム、カイトボードなどのギアは、きちんとセッティングされているか、きちんと作用するかなど、海上に出る前に必ずチェックしてください。

風と海面、天候について

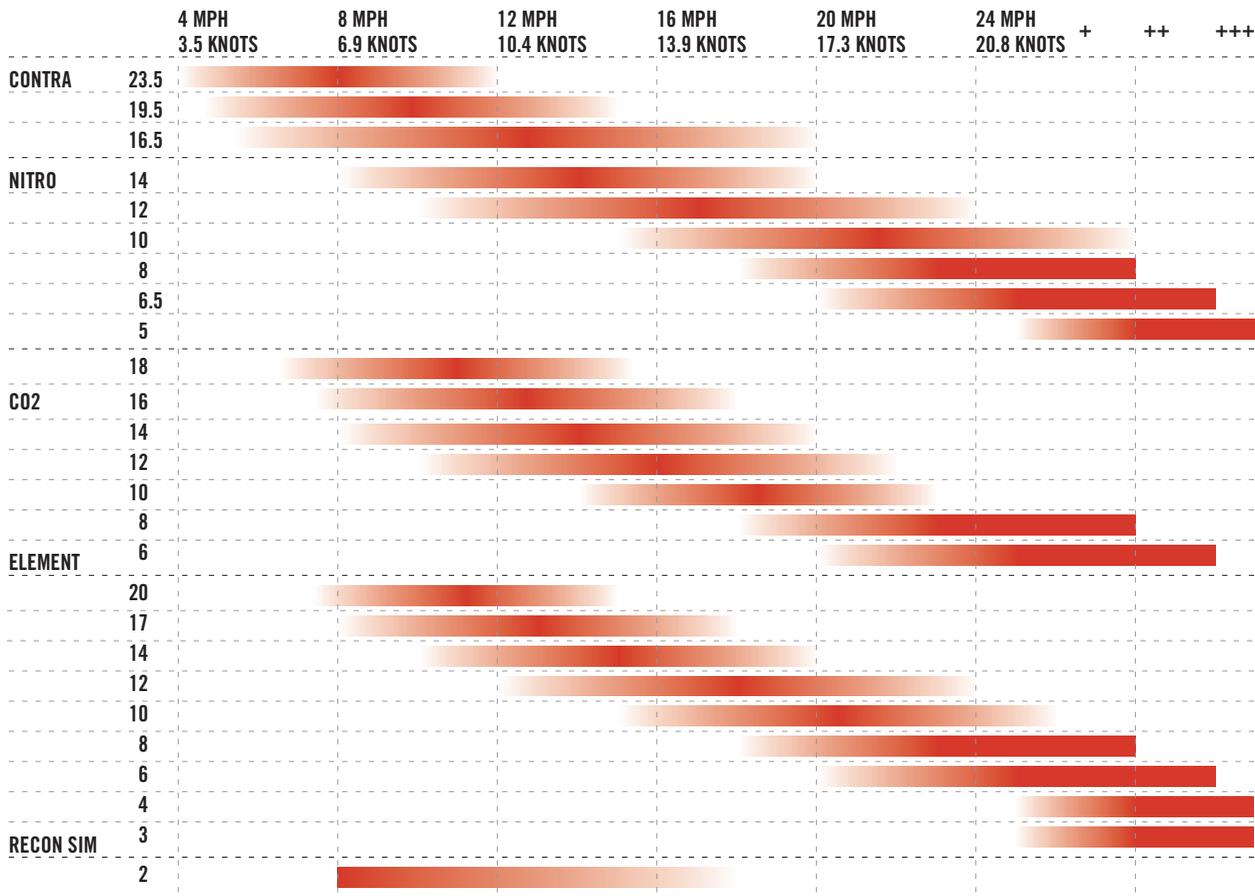
- 風のパワーを過小評価しないでください。
- 不意の天候の変化に気を付けてください。
- オフショアのコンディションを避けド・オンショアのコンディションでは注意が必要です。
- 強風やガスティなコンディションは避けてください。
- 特にビギナーのうちは波のあるコンディションでは注意が必要です。
- 潮の満干やカレントを調べましょう。
- 自己のレベルを認知しましょう。自己の限界を超えるコンディションでカイトボーディングしないでください。
- 外気温や水温について前情報を得て、自然要素から身を守りましょう。
- 嵐のなかでこの製品を使用しないでください。
- 必要に応じて風速計を使いましょう。
- オーバーセイルになるカイトを使用するのはやめましょう。風の早分かり表を使い、最適なサイズのカイトを選びましょう。常識の範囲内で無理をせず、サイズの決定に不安が残るときには小さいサイズを選びましょう。

安全のためのギア

以下のプロテクション用ギアの使用を強くおすすめします

- ヘルメット
- ライフジャケット、インパクトベストなどの浮力体
- ネオプレン製ウェットスーツ
- グローブ
- ブーツなど足を保護するもの
- 目を保護するもの
- 安全用ナイフ
- 日焼け止め

この表は一般的なガイドラインにすぎません。ライダーの能力やボードサイズ、水面の状況がカイトに影響を及ぼします。使用カイトのサイズは個人の経験を元に決定し、実際にライディングしているライダーのサイズを参考にしてください。



* How to read: Dark = best suited for. Gray = usable. White = not recommended.

ライダーのレベルの認知

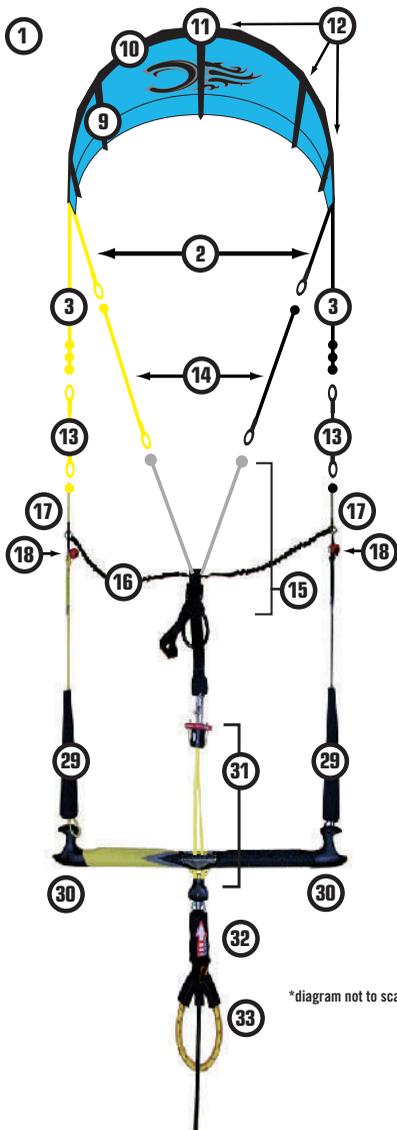
- きちんとしたインストラクションなしでカイトボーディングしないでください。
- 一人でのライディングは禁止です。
- ランチングやランディング、ライディングはパートナーと行つか、ビーチで絶えず観察してくれる人が必要です。
- この商品を使用する前に良好な健康状態である必要があります。
- 実際のカイトを飛ばす前に、サイズの小さい『トレーニング・カイト』でカイトを飛ばす練習を行ってください。
- 『トレーニング・カイト』で十分に練習を重ねることによって、より安全に上手にカイト操作を行うことができるようになります。
- この商品を水上で使うためには上手に泳げなければなりません。
- 自己レベルには風と海面のコンディションと大きな関係があるということを理解してください。コンディションに合わせて正しい道具のチョイスをしましょう。
- 泳いで帰れないほど沖ではカイトボーディングしないでください。
- 絶えず体力の温存をはかってください。疲れ切る前にカイトボーディングのセッションを終了してください。
- 実際にカイトボーディングを行う前に安全上の予防策をしっかりとして入れておいてください。ランチング、ランディング、フライイングの方法、および水上で使用する際の注意、レスキューの方法など。
- カイトをランチングの前に安全システムを理解しておく必要があります。
- カイトを海の近くで使用する前に、自己レスキューの方法を身につけてください。
- インフレーターブルカイトを扱ったことがない人にランチングやカイト・キャッチをさせないでください。そういった人や回りの人、ライダーに怪我を負わせてしまう恐れがあります。
- 安全上の責任は全てライダーにあります。

カイトボードに適した場所

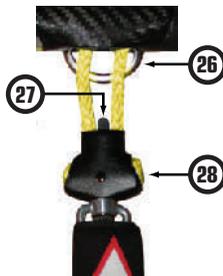
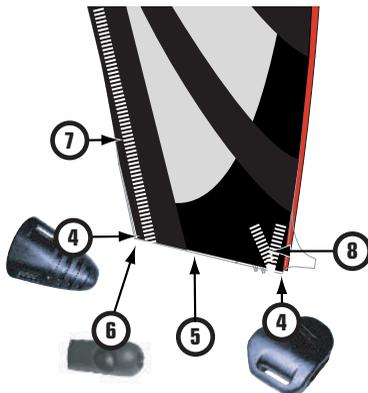
- 地域の法律やきまり、規則に従い、使用可能な場所での製品を使いましょう。
- 天候やローカルルールについて、地元のライダーの話を聞きましょう。
- カイトをランチングさせる前に必ず周囲をチェックしてください。
- この商品を使用する際にはランチングやランディングに広いスペースを必要とすることを理解してください。
- カイトを使用する際、ライダーの左右、風下に少なくとも100mのスペースが必要です。特に風下には十分にスペースをとってください。
- 特にランチングする場所では風向きに絶えず注意する必要があります。
- 浅いリーフや飛び出しているリーフ、岩のある場所で行わないでください。
- 朝回りに注意してください。干潮時にはビーチの様子が変わり、今までになかった障害物があらわれる可能性があります。
- 電線や電柱、木、人、ペット、建物、車、道路、風下に尖ったものがある所、空港の近くではカイトを使用しないでください。
- 人の多いビーチや波打ち際では使用しないでください。
- 歩道や人の通る場所にラインが渡らないようにしてください。
- ライダーとカイトの間を他の人が通過しないようにしてください。
- ウインドサーフィンやジェットスキーなど他のマリンスポーツを行っている人、海水浴を行っている人、浮遊物に対して十分に注意してください。
- ランチングの前には、ランチング場所以外にも安全にランディングできるスペースを確認してください。

KITE OVERVIEW

カイトのオーバービュー レコン2コントロールシステム搭載



*diagram not to scale



- 1 ☑ 4ラインカイト
- 2 ☑ レコン・プライダル・アッセンブリー
- 3 ☑ レコン・リア・ピッグテイル

- 4 ☑ レコン・テンション・フィッティング
(フロント/リア)
- 5 ☑ レコン・ロードトランスファーチップ
- 6 ☑ レコン・テンション・パレット
- 7 ☑ レコン・アクティベーションライン
(トレーニングエッジ用)
- 8 ☑ レスキューハンドル

- 9 ☑ 正確で最適化された3Dパテン
- 10 ☑ ダクロン製のリーディングエッジ
- 11 ☑ エアロック・ハイボリュームバルブ
- 12 ☑ スタンダード・インフレーションバルブ
- 13 ☑ ステアリングライン
(リア・コントロールライン)
- 14 ☑ デパワーライン
(フロント・コントロールライン)
- 15 ☑ センターライン調節ストラップ
- 16 ☑ ラインストッパー
- 17 ☑ リーダーライン
- 18 ☑ リランチ・アシスト・ボールグリップ

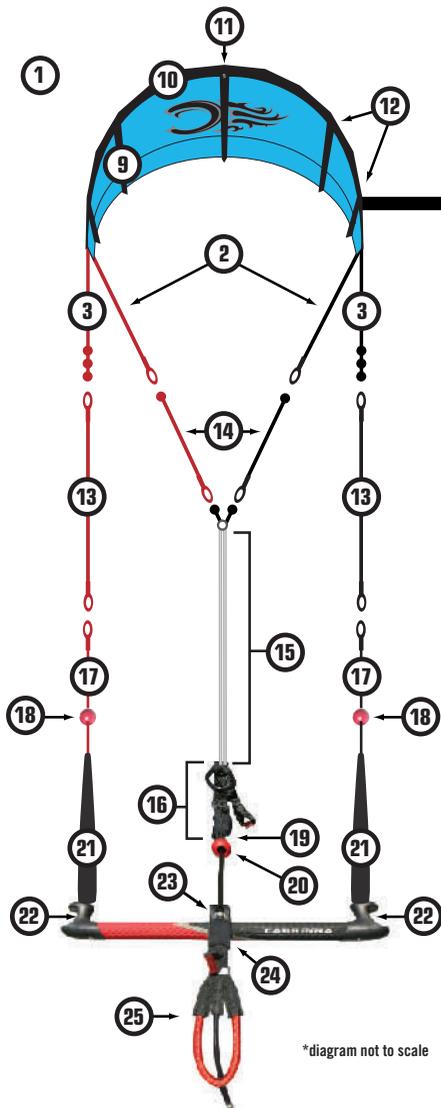
- 19 ☑ EVAクイックリリー・スピード
- 20 ☑ クイック・コネクトリング
- 21 ☑ リリースピン
- 22 ☑ ロックスライド
- 23 ☑ リリーステージ
- 24 ☑ リリースプレート
- 25 ☑ ロックパレル

- 26 ☑ パワーロック・ループ
- 27 ☑ パワーロック・フック
- 28 ☑ スィベル・ボディ

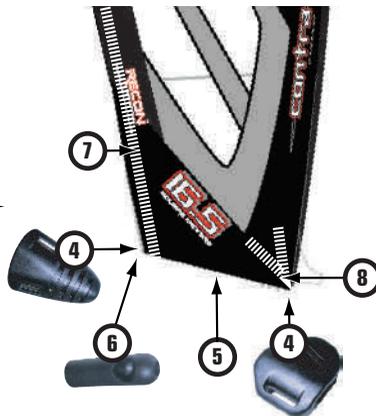
- 29 ☑ バーフロート
- 30 ☑ マルチファンクション・バーエンド
- 31 ☑ デパワーライン
- 32 ☑ ハーネスループ・クイックリリース
- 33 ☑ 安全ピン付きレコン・ハーネスループ

KITE OVERVIEW

カイトのオーバービュー レコン1コントロールシステム搭載



*diagram not to scale



- 1 ☑ 4ラインカイト
- 2 ☑ レコン・ブライダル・アッセンブリー
- 3 ☑ レコン・リア・ビッグテイル
- 4 ☑ レコン・テンション・フィッティング (フロント/リア)
- 5 ☑ レコン・ロードトランスファーチップ
- 6 ☑ レコン・テンション・パレット
- 7 ☑ レコン・アクティベーションライン (トレーニングエッジ用)
- 8 ☑ レスキューハンドル
- 9 ☑ 正確で最適化された3Dバテン
- 10 ☑ マルチセグメントのダクロン製リーディングエッジ
- 11 ☑ エアロック・ハイボリュームバルブ
- 12 ☑ スタンダード・インフレーションバルブ
- 13 ☑ ステアリングライン (リア・コントロールライン)
- 14 ☑ パワーライン (フロント・コントロールライン)
- 15 ☑ レコン・センター・リーダーライン
- 16 ☑ レコンQRシステム付きセンターライン調節ストラップ
- 17 ☑ リーダーライン
- 18 ☑ ランチ・アシスト・ボールグリップ
- 19 ☑ インストッパー
- 20 ☑ レコン・リリースハンドル
- 21 ☑ バーフロート
- 22 ☑ マルチファンクション・バーエンド
- 23 ☑ パワーロック・フィッティング
- 24 ☑ イックリリース付きパワーロックデパワーライン
- 25 ☑ 安全ピン付きレコン・ハーネスループ

レコン - 重要な情報

2004年と2005年モデルのすべてのカブリナ・インフレータブルカイトにはレコン・セキュリティリリーシュ&リランチシステム（レコン）が標準搭載されています。このカブリナ独自のシステムは、ともにレコン・クイックリリース・ハンドルをライダーが動かすことによって、ただちにカイトをデパワーすることができるオリジナルの機能です。カイトをデパワーする機能とともに素早くリランチすることを可能にしたシステムです。

レコンには以下のような特徴があります：

- ☒ レコン・リリースハンドルを動かすことによって、カイトをただちにデパワーすることができる
- ☒ 簡単に海上でのリランチができる
- ☒ バーを自在にスピンさせることができる

レコン・リリースシステムの重要項目

- ☒レコン独特のただちにデパワーできる機能を十分に働かせるために、すべての2004年と2005年モデルのカブリナ・カイトはレコン搭載のコントロールシステムを使用する必要があります。
- ☒レコン・システム搭載でないカイト（2003年モデル以前のカイト）に合わせてレコン搭載のコントロールバーを使用する場合、レコンリリースを用いてカイトをデパワーさせることは危険を伴います。それでも旧タイプのカイトにレコン・コントロールシステムを使うことはできますが、それによってカイトがパワーアップ（デパワーではないので注意）することになります。
- ☒旧タイプのコントロールバー・システムを2004年あるいは2005年モデルのカイトとともに使用する場合、リランチの機能は使用できますが、ただちにデパワーできる機能に関しては正常に働きません。
- ☒注意：カブリナではカイトをランディングさせるなど、必要な場合にのみレコンを作動させることをお勧めします。
- ☒レコンを使用する前には、レコンが正常に取り付けられているか確認してください。カイトに合った
- ☒コントロールバーを使用する必要があります。
- ☒ライディングする前は必ずレコンが正常に働くことを確認してください。
- ☒システムを作動する必要がある状況になる前に、レコン操作にじゅうぶんに慣れ親しんでおく必要があります。（レコンの操作方法を参照）
- ☒レコンは一度リリースされると、センターラインにあるレコンを手動でリセットするまで（レコンシステムのリセットを参照）カイトは飛行しません。

安全ピン

この安全リーシュはレコンの安全スピニングリーシュで、ライダーがハーネスをかけた時にだけ働きます。そのためハーネスのフックとハーネスループが安全に接続されていることが大切です。このシステムは完璧にカイトをデパワーさせることができ、さらにバーを自在に動かすことも可能、カイトのリランチも楽にしてくれます。こういった利点に加えライダーを安全にカイトとつなぎ合わせています。

- ☑レコンのただちにデパワーする機能を作動させるためには、クイックリリース (QR) ・ハーネスループにハーネスフックを掛けていなければなりません。
- ☑ループ下の安全ピンをハーネルフックに挿入します (図1)
- ☑ランチングされるかあるいはハーネスループに安全ピンが挿入される前に、クイックリリースとレコン・システムが正常にセッティングされていることを確認します。
- ☑カブリナでは安全ピンは海上にいるときにだけ挿入し、陸上でははずしておくことをお勧めします。



(Fig.1)

注意：安全ピンが挿入されているとき、ライダーはカイトと半接続状態にあります。安全のため安全ピンを挿入する前に、クイックリリース・ハンドルがどこにあるのか、どのようにすれば作動するのか確認してください。

安全ピンの挿入

- 1☑QRとレコン・システムが正常にセッティングされていることを確認してください。
- 2☑ハーネルループにハーネスフックをかけます。(図1)
- 3☑ハーネスループにフックをかけるときは、海上で安全にランディングし、近くに障害物がないことを確認してください。
- 4☑ハーネスフックのまん中に安全ピンを挿入し、それがハーネスループの下にあることを確認してください。ハーネスループはハーネスフックと安全ピンの間にあることが、正常に作動するために必要です。(図2)
- 5☑安全ピンがきちんと挿入されていることを確認してください。これによってハーネスフックが不用意にハーネスループからはずれることを防ぎます。安全ピンが正常に挿入されていることを確認したら使用開始です。



(Fig.2)



(Fig.3)

安全ピンのリリース

安全ピンは以下の2つの方法でリリースできます：

- A.☒✕を使い、ハーネスフックから安全ピンを抜き取ります。(図3)
- B.☒☒ハーネスループにあるクイックリリース・ハンドルを使用してリリースします。(図4)



(Fig.4)

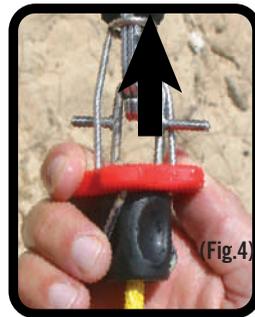


(Fig.5)

タップアウト

2年目のレコンではリリースのための手順を1ステップ省くことによって、大切な安全面の特徴を加えることに成功しました。新しいタップアウトではライダーがコントロールバーを押すことによって、ただちにデパワー機能を作動させることが可能です。

2年目のレコンでは、コントロールバーでリリース・ハンドルを強くたたくことによって、ライダーが使用中でも必要に応じて、ただちにカイトをデパワーできるシステムです。ライダーはハーネスループと一体となったリリースによってデパワーされたカイトとつながったままの状態です。ライダーがハーネスループをかけている限り、リリースはつながった状態です。



レコン・リリースにあるモードを『ラUNCH』にすることで、2年目のレコンでは、ランチングやランディングの前、またはライディング中のどのような状態でもライダーの必要に応じてタップアウトによるリリースを機能させることができます。(Fig.1)

ライダーが安全に水面でライディングしているときは『ライド』モードを選択することができます。『ライド』モードはタップアウト機能をオフにし、ライダーが必要なときにラインのねじれをなおすためにバーから手を離すことができます。どちらのモードで使用している際にもカイト方向にリリース・ハンドルが移動することによってデパワー機能が作動します。

タップアウト - ランチモード

タップアウト機能はランチモードで使用する場合のみ、作動します。

カイトをランチングさせる場合、モードセクターでランチを選択します。これはロックバレルを引き下げ、赤いリリースハンドルにあるラUNCHという言葉まで矢印が移動した状態です。

これにより、タップアウト機能はコントロールバーでリリース・ハンドルの底まで押し下げることによって作動します。

注意：ランチ・モードでは、スピニングのためにコントロールバーから手を離すことはできません。タップアウトをリリースしてすみやかにカイトをデパワーしてから、バーを離しましょう。

タップアウト - ライドモード

このモードは自由にバーから手を離すときに使うモードです。重要な注意：ライド・モードを選択している場合、タップアウト機能は使えません。ただちにデパワーするシ

ステムを作動させるためには、カイト方向に赤いリリースハンドルを押すことによって手動で操作しなければなりません。コントロールバーをリリース・ハンドルに押しあてただけではタップアウトは機能しません。安全に海上でライディングできる準備が整ったら、ライド・モードを選択するか、タップアウト機能を作動させるためにランチ・モードのままにしておくかはライダーの選択です。ライド・モードを選ぶためにはロックバレルを引き、矢印が赤いリリースハンドルに書かれたライドの文字と並ぶまで時計回りが反時計回りに回ります。注意：いかなる時も、どのモードでライディングしているか把握し、レコンのリリースを正しく行ってください。コツ：上部リリースプレートを握りロックバレルを回します。ライド・モードが働いているときは、予備のインジケーターとしてゴムひもを斜めの角度から見るすることができます。システムがライド・モードの時、リリースは無意識にシステムに対して上向きに働いていることに留意してください。



CAUTION! Know which mode you are in at all times in order to prevent an unintentional release of the Recon.



レコン

タップアウト (タップアウトの操作)



(Fig.1a)



(Fig.2)



(Fig.3)



(Fig.4)

タップアウトの操作：ラUNCH・モード

- 1 ラUNCH・モードでただちにデパワーする機能を作動させるためには、センターライン調節ストラップにあるレコン・リリースハンドルに対してバーを押しだけです。(図1)
- 2 これによってタップアウトはセンターライン調節ストラップの下からクイックリリースします。(図2)
- 3 タップアウト・クイックリリースが作動すると、センターライン調節ストラップはサイドリーダーにスライドしながら上がります。これによってステアリング (後) フライイングラインのテンションを高め、デパワー (前) フライイングラインを緩めます。
- 4 レコン・バレットがカイトのウイングチップにあるレコン・テンション・フィッティングからはずれます。(図3)
- 5 バレットがレコン・テンション・フィッティングから外れると、レコン・アクティブイション・ラインはカイトのトレーリングエッジに強く巻き付きフォイルを崩すことによってカイトのパワーを効果的に落とします。
- 6 カイトは完全にデパワーし空中から海面に落ちます。(図4)



(Fig.1b)



(Fig.2)



(Fig.3)



(Fig.4)

タップアウトの操作：ラUNCH・モード：ライド・モード

- 1 ライド・モードでただちにデパワーする機能を作動させるためには、センターライン調節ストラップの一番下にあるレコン・リリースプレートを押すだけです。(図1)
- 2 これによってタップアウトはセンターライン調節ストラップの下からクイックリリースします。(図2)
- 3 タップアウト・クイックリリースが作動すると、センターライン調節ストラップはサイドリーダーにスライドしながらカイト方向に移動します。これによってステアリング (後) フライイングラインのテンションを高め、デパワー (前) フライイングラインを緩めます。
- 4 テアリングラインにテンションがかかることとデパワーラインが緩むことによって、レコン・バレットがカイトのウイングチップにあるレコン・テンション・フィッティングからはずれます。(図3)
- 5 バレットがレコン・テンション・フィッティングから外れると、レコン・アクティブイション・ラインはカイトのトレーリングエッジに強く巻き付きフォイルを崩すことによってカイトのパワーを効果的に落とします。
- 6 カイトは完全にデパワーし空中から海面に落ちます。(図4)

海上でレコンを作動した場合は、自己レスキューのステップに従い岸に泳いでください。レコンをリセットして (レコンのリセットを参照) ライディングを続けることもできますが、これには中上級者レベルの技術が必要です。

ランディングの際にレコン・システムを作動させた場合は、岸でパートナーにしっかりとカイトをキャッチしてもらい、その後レコンをリセットしてラインをコントロールバーに巻きまます。

注意：レコン・システムはカイトをランディングさせるために用いる緊急用の機能です。

注意：手動でセンターライン調節ストラップにあるレコンをリセットするまで、カイトは飛行できません。(レコン・リリース・システムのリセットを参照)

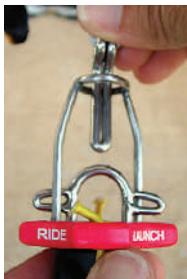
レコン・システムの重要なケアとそのコツ

- ☒ カイトを使用していない時はカイトのウイングチップにあるレコン・テンション・フィッティングにバレットが再セットしてあることを確認してください。(図1)
- ☒ ラインをバーに巻く前にレコン・システムがリセットしてあることを確認してください。
- ☒ ライディングの間にビーチにカイトを置いておく場合、カイトが風に飛ばされないようしっかりと重しを乗せておいてください。これはカイトのファブリックが擦れることを防ぐだけでなく、ブライダルラインやレコン・システムのもつれを防ぎます。
- ☒ 長い時間のランチングやカイトをしまっておく際には、レコン・テンションフィッティングについた砂をしっかりと落とすきれいな状態であることを確認してください。
- ☒ ウイングチップにあるベルクロのホルダーにカイトのリーダーを収納するようにしましょう。(図2)



レコン・システムのリセット

ライディングが終了してコントロールバーにラインを巻くとき、またはその前に、レコン・システムはリセットされていなければなりません。海上でもレコンはリセットできますが、海上でリセットする場合には中上級者レベルの技術が必要となります。



(Fig.1)



(Fig.2a)



(Fig.2b)



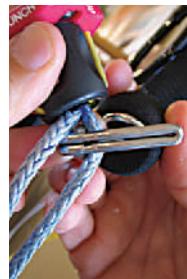
(Fig.3)

陸上でレコンをリセットするための手順は以下です：

- ☑カイト方向へ行きセンターライン調節ストラップをつかみます。注意：手にリーダーラインやフライングラインを巻き付けしないでください。センターライン調節ストラップだけをつかみ、自分に引き寄せます。
- ☑センターライン調節ストラップをデパワーラインのトップにあるレコンリリースに向けて戻します。
- ☑リリースピンをリリースケージに差し込みます。(図1)
- ☑リリースピンをロックスライドに通します。(図2)
- ☑ロックスライドを引き下げ、リリースピンをリリースケージのリングに入れます。(図3)
- ☑リリースピンがリリースケージの中にあることを確認してください。注意：この過程はとても重要で、リリースケージを正しく元に戻さなかった場合、リランチした際にレコンが再び作動することがあります。
- ☑これでレコンリリース・システムはリセットされました。
- ☑カイトを海面からリランチして、ラインをコントロールバーに巻いてください。



(Fig.1)



(Fig.2)



(Fig.3)

海上でレコンをリセットするための手順は以下です：

- ☑クイックリリース・ハーネスループをかけたままで泳ぐか、センターライン調節ストラップに向かってサイドリーダーラインを手繰り寄せてください。注意：フライングラインには触れないように注意してください。
- ☑カイト方向へ行きセンターライン調節ストラップをつかみます。注意：手にリーダーラインやフライングラインを巻き付けしないでください。センターライン調節ストラップだけをつかみ、自分に引き寄せます。
- ☑センターライン調節ストラップをデパワーラインのトップにあるレコンリリースに向けて戻します。
- ☑2本のデパワーラインの間にリリースピンを差し込んでください。(図1)
- ☑リリースピンを持ちデパワーラインに通してください。(図2)
- ☑リリースピンが通りやすいようにステンレス製のリングを押し上げ、その後ピンがセットされるようにリングに向けて引き下げてください。(図3)
- ☑リリースピンがリングの中に入っていることを確認してください。注意：この過程はとても重要で、リリースケージを正しく元に戻さなかった場合、リランチした際にレコンが再び作動することがあります。
- ☑これで海上からカイトをリランチさせる準備は整いました。すぐに岸に戻りシステムをリセットしてください。このリセットはビーチに戻るための応急的な処置であって、長いライディングに耐え得るものはありません。さらにトラブルに巻き込まれた場合は、リングを押し上げ、クイックリリース・システムを引いてください。

レコン・システムを使ったリランチ

カイトをデパワーさせる機能と同時に素早くリランチさせる機能も備わっています。レコンの2つのキーはカイトの構造内にしっかりと取り込まれ、コントロール・システムと同様に余分なラインを増やすことなくコンバーチブルリーシュやリバース・ラウンチ・システムに組み込まれています。5本目のラインや外付けのリストリーシュやハーネスリーシュ、複雑なブライドル・システムもありません。

カイトのリーディングエッジが海上に落ちた時、以下の手順でラウンチ・ポジションに戻すことができます：

- ❑ バック（ステアリング）リーダーラインにはそれぞれリランチ・アシストボールグリップがついており、それがカイトのリランチをアシストします。
- ❑ バック・リーダーラインの1本をにぎり、身体方向にボールとリーダーラインを引きます。レコン・テンション・フィッティングにあるレコン・バレットをはずすために鋭く引きます。リーダーラインにはテンションをかけ続けます。注意：手や身体にリーダーラインを巻き付けからまないように注意してください。（図1）
- ❑ バレットがはずれたら、カイトのトレーリングエッジが立ち上がり、じきにカイトは向きを変えます。（図2、3、4）
- ❑ 方向が変わったらカイトはエッジオブウインドウに向かって動きだします。またライダーはエッジオブウインドウにカイトを向かせます。このためにカイトをリランチするまで同じリーダーラインを持ち続けなければなりません。（図5）
- ❑ カイトのリランチの準備ができたならリーダーラインから手を離し、ゆっくりとカイトを操作してバーの高さまで空に上げます。
- ❑ 再びライディングできるようになり、フライングラインにテンションがかかるとレコン・バレットはカイトのウイングチップにあるレコン・テンション・フィッティングの元の位置に戻ります。



バイパス・リーシュ（オプション）

2005年モデルのすべてのカブリナカイトにはオプションでバイパス・リーシュを取付けることができます。これはハーネスループにハーネスをかけることができない、スクールで練習中や初めてカイトボーディングに取り組む人にお勧めの製品です。

バイパス・リーシュは手が自由になるシステムで、ボードを扱う時に便利なシステムです。

バイパス・リーシュを使わずにライディングしようと考えたら、カイトとライダーをつなぐ安全ピンの操作方法について学ぶ必要があります。

バイパス・リーシュの重要なコツ

- ☒海上に出る前にきちんとバイパス・リーシュがつながっているかどうか確認してください。
- ☒カブリナ・カイトをオプションのバイパス・リーシュとともに使用するとき、ハーネスループを使用できないレベルではコントロールバーを離しただけで働くシャットダウンが作動する状態にしてください。
- ☒バイパス・リーシュを使用しながらハーネスループにフックをかける場合、最初はハーネスをかけないが、ハーネスループのクイックリリースを作動する状態にしてカイトのシャットダウンを行いバイパス・リーシュを使用するかどちらかです。

注意：バイパス・リーシュを使用してライディングしているときは、ハーネスループにフックをかけないようにしましょう。

セッティング

クイックリリース・システム(QRS)

クイックリリース・システム (QRS)

QRSで大切なポイント

- ☑QRSの引きタグがライダーに向いていることを確認しましょう。
- ☑混乱を防ぐため、常に同じ方向に引きタグを向けてライディングしましょう。緊急時に引きタグの位置がすぐに分かるようにしておくためです。
- ☑必要なときにQRSが使用できるよう、QRSに慣れておきましょう。

QR操作方法

リリースタブを握りカバーされたピンが外れるまで引きます。テンションがかかっている状態の場合、ベルクロがハーネスループからはずれません。



(Fig. 1)

QRのリセット方法

- 1☑ ベルクロをステンレス製のDリングに通します。
- 2☑ フラップを元の位置に戻します。
- 3☑ QRピンを挿入できるよう、グロメットを動かします。
- 4☑ QRピンを元の場所に刺します。
- 5☑ QRピンの上にベルクロをかけます。
- 6☑ システムを被うように細いベルクロをかけます。
- 7☑ これでQRの再使用が可能です。



(Fig. 2)



(Fig. 3)



(Fig. 4)



(Fig. 5)



(Fig. 6)



(Fig. 7)

ライダー自身によってカイトから身体を離すことができるあらゆるタイプのクイックリリース・システム (QRS) を用意しました。

セッティングステップ1

パワーロック・コントロール・システムの装着/コツ

パワーロック・コントロールシステム (パワーロックCS)

パワーロック・コントロール・システム (パワーロックCS) は4ラインカイトにのみ装着可能です。

パワーロックCSによって、ライダーはQRS/パワーロック・ハーネスループにフックすることによってカイトのパワーを意図的にロックしたりロックを外したりすることができます。

このシステムではコントロールバーに2つのハーネスループを取り付ける必要があります。ライダーは1つのハーネスループで4ラインを固定したりデパワーすることができます。

大切なパワーロックのコツ

- ☑ カイトは良くチューンされているのでライダーがハーネスラインを外しても、カイトにパワーがかかりますが、必要以上にかかることはありません。
- ☑ センターライン調節ストラップ (C.A.S.) によってカイトのパワーを効果的に調節できます。
- ☑ 4ラインカイトのチューニングに対するさらに細かい説明は4ラインチューニングの項を参照してください。

パワーロックCSの操作方法



ロックボールがはまっている状態

カイトにパワーがかかりロックされた状態

ロックするには：ライダーがバーを身体の方へ引き寄せ、パワーロック・フィッティングにロックボールをかけます。



(パワーロックCSに含まれるもの)

- ☑ コントロールバー エンドフィッティングとパワーロック・フィッティングを含む
- ☑ QRS付きデパワーライン
- ☑ 安全ピンつき30cmのレコン・ハーネスループ (27cm, 33cm, 36cmのサイズバリエーションあり)
- ☑ インスタント・リランチ・ボールグリップ (ただちにリランチできるボールグリップ) 付きのリーダーライン 2本 (左: イエロー、右: ブラック)
- ☑ レコンリリース・ハンドル付のセンターライン調節ストラップ
- ☑ バーフROOT



ロックボールが外れた状態

カイトがデパワーした状態

ロックを外すには：バーをライダーは身体の方へ少し引き寄せ、手首を使いバーをひねるようにライダーに引き付けてパワーロック・フィッティングからロックボールを外します。

セッティング ステップ1

パワーロック・コントロール・システムの装着/コツ

パワーロック・コントロールシステム (パワーロックCS)

パワーロック・コントロール・システム (パワーロックCS) は4ラインカイトにのみ装着可能です。

パワーロックCSによって、ライダーはQRS/パワーロック・ハーネスループにフックすることによってカイトのパワーを意図的にロックしたりロックを外したりすることができます。

このシステムではコントロールバーに2つのハーネスループを取り付ける必要があります。ライダーは1つのハーネスループで4ラインを固定したりデパワーすることができます。

大切なパワーロックのコツ

- ☑ カイトは良くチューンされているのでライダーがハーネスラインを外しても、カイトにパワーがかかりますが、必要以上にかかることはありません。
- ☑ センターライン調節ストラップ (C.A.S.) によってカイトのパワーを効果的に調節できます。
- ☑ 4ラインカイトのチューニングに対するさらに細かい説明は4ラインチューニングの項を参照してください。



(パワーロックCSに含まれるもの)

- ☑ コントロールバー エンドフィッティングとパワーロック・フィッティングを含む
- ☑ QRS付きデパワーライン
- ☑ 安全ピンつき30cmのレコン・ハーネスループ (27cm, 33cm, 36cmのサイズバリエーションあり)
- ☑ インスタント・リランチ・ボールグリップ (ただちにリランチできるボールグリップ) 付きのリーダーライン2本 (左: イエロー、右: ブラック)
- ☑ レコンリリース・ハンドル付のセンターライン調節ストラップ
- ☑ パーフロート

CONTROL SYSTEM - OPERATION



ロックボールがはまっている状態

カイトにパワーがかかりロックされた状態

ロックするには: ライダーがバーを身体の方へ引き寄せ、パワーロック・フィッティングにロックボールをかけます。



ロックボールが外れた状態

カイトがデパワーした状態

ロックを外すには: バーをライダーは身体の方へ少し引き寄せ、手首を使いバーをひねるようにライダーに引き付けてパワーロック・フィッティングからロックボールを外します



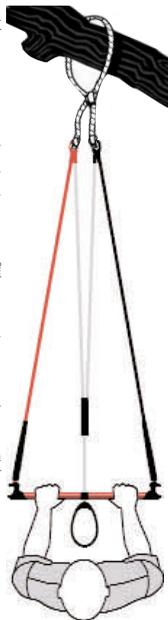
セッティング ステップ1

1.1 海上に出る前にラインの長さをチェック / 1.2 ラインの長さの調節方法

1.1 海上に出る前にラインの長さをチェック

2005年モデルのパワーロック・コントロールバーにはフライイングラインがセットされていますが、海上に出る前にラインの長さをチェックしてください。下記の手順で行います：

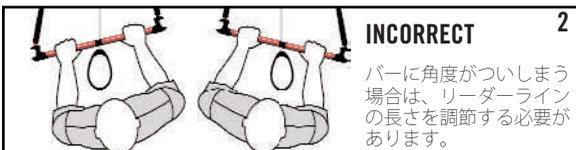
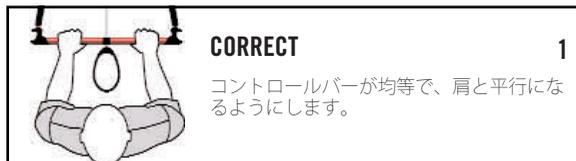
- ☑ シートの切れ端などをシートの端があまるように木やフェンスの杭などに巻き付け結びます。
- ☑ あまらせたシートの端に4本のラインが同じ長さになるように結びます。
- ☑ 杭の所からフライイングラインを伸ばし、黄色いコントロールラインを左に、黒いコントロールラインを右になるよう（バーから杭を見て）、コントロールバーが上向きになるように地面に置きます。バーと杭の間に障害物がなく、直線上に置かれていることを確認してください。
- ☑ フライイングラインにねじれや交差がないことを確認してください。
- ☑ 杭にもっとも近いフライイングラインのリア（後ろ）ステアリングラインと前のデパワラインにはアイメットがあります。オーバーハンドノットがフロント（デパワ）ステアリングラインにはあり、これはカイトと正常に接続するために必要なものです。
- ☑ 杭に結んだシートを取り、左に置いた黄色と右に置いた黒の4本すべてのライン上にあるアイメットにシートを通します。
- ☑ 4本のラインすべてのアイメットにシートを通したら、もやい結びをします。
- ☑ コントロールバーの所に戻ります。
- ☑ カイトをフルパワー仕様でセッティングするために、センターライン調節ストラップが完全に伸ばされていることを確認してください。
- ☑ 杭とまっすぐになるように立ち、後ろに体重をかけながら強くコントロールバーを引きます。
- ☑ その際、コントロールバーは肩の高さに、肩と平行になるように持ってください。
- ☑ 力を加えているときにすべてのラインに均等に力がかかっていなければなりません。（デパワラインにもステアリングラインにもたまるみがない状態）
- ☑ コントロールバーを肩と平行に引き4本全てのラインを均等に引くことができたなら、コントロールシステムはインフレータブルカイトに取り付けることができます。



1.2 ラインの長さの調節

調節はリストリーシュについていない側のリーダーライン上にあるノットを移動させることによって行います。4本すべてのフライイングラインの長さを均等にするためです。

- ☒ リーダーラインの1本が長過ぎる場合はノット（ライン上の長い側にあるリランチボールの内側にあります）を緩め、バー方向に移動させます。
- ☒ ステアリングラインの1本が短すぎる場合はノット（ライン上の短い側にあるリランチボールの内側にあります）を緩め、バー方向に移動させます。
- ☒ ノットを縛り直し、再びラインの長さをチェックします（図1）。コントロールバーが均等になるまで、調節を続けます。
- ☒ フライイングラインに結び目をつくらないでください。フライングラインに結び目をつくると、ラインの寿命が短くなります。ノットはリーダーラインにつくってください。
- ☒ センターライン（デパワライン）が不均等な状態は避けてください。もし不均等ならば、レコン・センターリーダーにあるノットによって調節します。黄色のデパワラインが長い場合、左のセンターラインにあるノットをコントロールバー方向に移動させます。同じデパワラインが短いときには、ノットをコントロールバーから遠ざけてください。
- ☒ 調節が完了したらバーの所に戻り、4本すべてのラインが均等であり、バーが肩と平行になっているかどうかチェックしましょう。



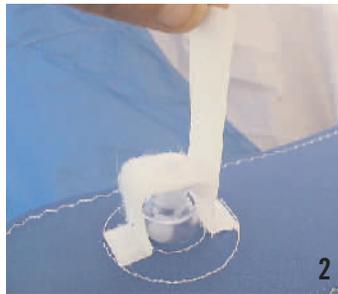
セッティング ステップ2

2.1 バテンに空気を挿入

バテンへの空気挿入



バルブと垂直になるようにポンプを持ちます。片手でバルブをしっかりと固定し、もう片方の手でポンプ操作を行います。



全てのバテンにベルクロカバーをしっかりとかけます

カイトのバテンに空気を挿入する前にカイトのケアの項をお読みください。

- ☒ カイトを広げ、バテンを上にして置きます。
- ☒ 背中を風上に向け、カイトのリーディングエッジを身体の近くに保持します。空気をいれていない場合でもウイングチップに砂を乗せるなど、安全に気を配ってください。
- ☒ 最初に中央のバテンから空気を挿入します。さらそれをささむ2本のバテン、その後サイドのバテンに空気を入れます。
- ☒ 空気を入れるときはカイトのバルブに垂直になるよう、ポンプを持ちます。片手でバルブをしっかりと持ち、残りの手でポンプの操作を行います（図1）。これによって内蔵ブラダーの動きをサポートします。
- ☒ 全部のバテンに空気を入れ終わったら、内蔵ブラダーが正しく並んでいることを確認してください。
- ☒ リーディングエッジの端まで十分に空気が行き渡っていることを確認します。内蔵ブラダーがきちんと並び、端まで行き渡っていることを手で触って確認してください。
- ☒ これで空気の注入は終わりです。
- ☒ バテンが十分に膨らんだら、バルブプラグがバルブにきちんと入っていること、ベルクロがそれぞれのバルブをきちんとカバーしていることを確認します（図2）。
- ☒ バテンに必要な以上に空気を送り込まないでください。触ってみて硬く感じられる程度で十分に膨らんでいます。
- ☒ バテンには十分に空気を入れてください。空気の挿入が足りない場合はパフォーマンスの低下とリランチ時に問題が生じる可能性があります。

セッティング ステップ2

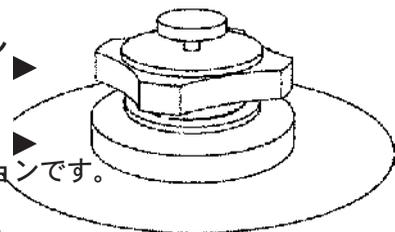
2.2 リーディングエッジに空気を挿入

リーディングエッジへの空気の挿入

全てのカブリナカイトはリーディングエッジ・ブラダーにあるように、高ボリュームのエアロックバルブと通常のバルブの2つのパートに分かれています。

上部はインフレーション
・キャップです。

下部はリリース
・バルブのセクションです。

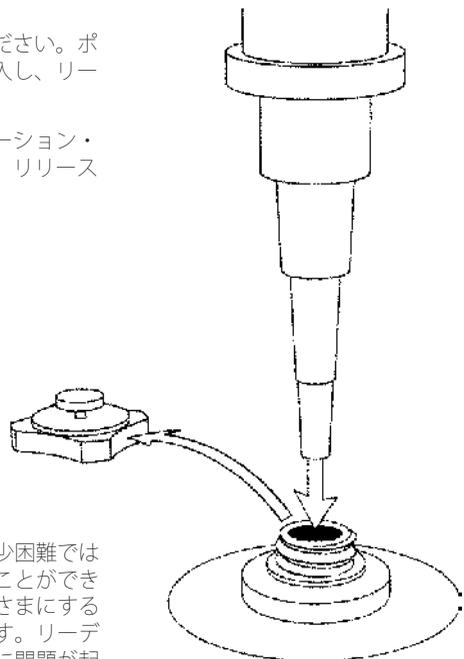


- ☒ リリース・バルブは時計回りにチューニングすることによって硬く閉まるつくりになっています。カイトを膨らませていない場合にバルブを締め過ぎないように注意してください。ブラダーを破損する恐れがあります。
- ☒ インフレーション・キャップを開けるためには時計回りと反対にひねってください。ポンプ（ハンドポンプを使用する際にはアダプターを使用してください）を挿入し、リーディングエッジを膨らませます。
- ☒ リーディングエッジが十分に膨らんだら、ポンプバルブをはずし、インフレーション・キャップをねじ込んでください。バルブが硬くなるまで、右回しで閉めます。リリースバルブが正しく作用していることを確認してください。



きちんと空気が入ったカイト

- ☒ リーディングエッジには十分に空気を入れてください。適度な状態では、多少困難ではありますがカイトの端を曲げることが可能です。簡単にカイトの端を曲げることができる場合、十分に空気が入っていない状態です。十分に膨らんだカイトはさかさまにする、ウイングチップが上空方向に向き、カイトが弓形の形状を保とうとします。リーディングエッジに空気が足りないと、十分なパフォーマンスやリランチの機能に問題が起ります。
- ☒ 一度リーディングエッジに空気を送り込んだら、カイトを裏返しにして砂などを乗せて固定します



セッティング ステップ2

2.3 安全なカイトの取扱い



ステップカイト を安全に保つコツ

- ☒ 使用しない空気を挿入したカイトを長い時間、ビーチに置かないでください。風向きがシフトする可能性があり、カイトが飛んだり安全でない状態になります。
- ☒ 必要だと感じる以上に重いものを乗せてください。人が操っていないカイトは危険です。
- ☒ 岩や尖ったもの（ボードを含む）をカイトの重りに使わないでください。これはカイトの寿命を縮める行為です。砂浜でカイトしない場合、砂袋の用意をお勧めします。
- ☒ 風が吹いているなかで、カイトを置き去りにしないでください。これによってカイトのトレーリングエッジが風によってバタつき、それによってレコンシステムやカイト本体にダメージを引き起こします。風の吹く

ビーチにカイトを置いておく場合、バテンの間全部やトレーリングエッジの近くに多くの砂を乗せ、バタつきをやめさせてください。それが不可能な場合は、プランケに入れてください。

- ☒ カイトを使用していないとき、レコン・バレットがウイングチップにあるレコン・テンション・フィッティング(RTF)にリセットされた状態にしてください。
- ☒ 他のビーチユーザーのことを絶えず考え、カイトやラインを他の人に対して危険がない状態に保ってください。
- ☒ ラインにからまるのを防ぎます。



セッティング ステップ2

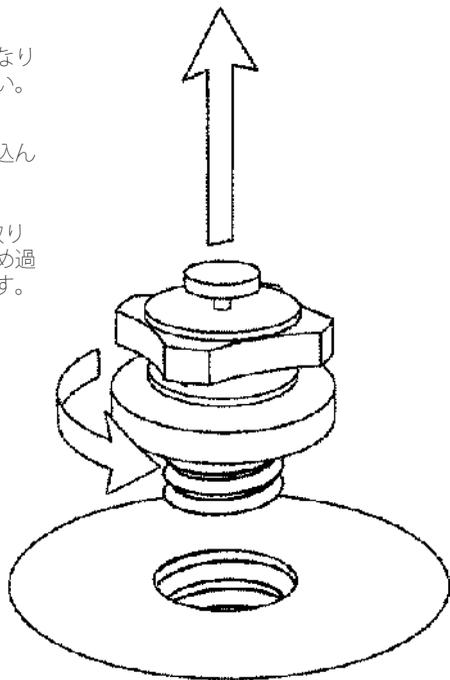
2.4 リーディングエッジから空気を抜く

リーディングエッジから空気を抜く方法

リーディングエッジから空気を抜く場合には、リリースバルブを回し取らなければなりません。インフレーションキャップを回しても空気は抜けませんのでご注意ください。リリースバルブはエアロックの下にあります。

空気を抜いた後、バルブについた砂や汚れを取ります。内蔵ブラダーを内側に畳み込んでカイトを折り曲げ収納します。

重要な注意: 空気を抜いたカイトのバルブを閉めるためには、ブラダーのねじれを取り除き、正しい位置に置く必要があります。空気を抜いたカイトのバルブをきつく閉め過ぎないでください。再びカイトをふくらませる場合に不都合が生じる恐れがあります。



セッティング ステップ3

3.1- コントロールラインの取付け

コントロールラインの取り付け

ステップ1と2を終了した後、空気を挿入したカイトにコントロール・システムを取り付けます。

- 1☒ラインを地面に伸ばして置いた後、コントロールバーから一番離れたフライングラインの端にカイトを持っていきます。カイトを持つ際、リーディングエッジを風上に向けて持ちます。
- 2☒カイトを砂や砂袋で固定します。尖ったものでカイトを固定しないでください。カイトにあるブライダルに接続部分が4ヶ所あることを確認します。（2ヶ所はウイングチップにあります）。リア（後ろ）ブライダルにはそれぞれ3つつつノットがあり、フロント（前）ブライダルにはそれぞれ1つつつラクヘッド・ループがあります。リアブライダルではまん中のノットを使い、他のノットはチューニングの際に使用します。
- 3☒黄色いデパワー（センター）ラインにあるノットをカイトの左ウイングチップにある黄色いブライダルのラクヘッド・ループに通し、念のためにノットを強く閉めます。（図）
- 4☒フライングラインにあるラクヘッド・ノットを使い、黄色いステアリング（外側の）ラインとカイトの左ウイングチップに黄色いブライダルを接続します。念のためにノットを強く閉めます。
- 5☒黒いデパワー（中央）ラインにあるノットをカイトのウイングチップにある黒いブライダルのラクヘッド・ループに通し、念のためにノットを強く閉めます。
- 6☒フライングラインにあるラクヘッドを使い、黒いステアリング（外側の）ラインとカイト右ウイングチップにある黒いブライダルを接続します。念のためにノットを強く閉めます。



*diagram not to scale

注意：カイトの概要の項を参照してください。

セッティング ステップ3

3.2 - 風下からランチングするためのセットアップ

ダウンウインド用ランチング・セッティング

- 1☒ カイトのチップがコントロールバーの方を向くように、カイトの風下側30mのところにバーを置きます（カイトのリーディングエッジは風上を向くようにします）。バーをカイトの風下に移動させる際、ラインをほどく前にバーの上下を逆にしなくてはなりません。これによって黄色いシートが右に、黒いラインが左に来るようになります。
- 2☒ ステアリングラインをラークヘッド・ノットを使い、トレーリングエッジの中央のノットあるいは後方プライダルに接続します。（黄色は黄色、黒は黒と同じ色のライン同士を接続してください）
- 3☒ 白いデパワー（中央）ラインをほどき、ラークヘッド・ノットとノットを使い、リーディングエッジあるいは前方プライダルに接続します。（黄色は黄色、黒は黒と同じ色のライン同士を接続してください）デパワーラインとステアリングラインが交差しないように確認してください。
- 4☒ ラインが交差しないように確認してください。

カイトの飛行への準備は終了です。安全に関するこのマニュアルの項を熟読し、コンディションをよく理解した上で海上に出ましょう。カイトのチューニングに関しては、このマニュアルの4ラインチューニングの項にあります。



*diagram not to scale

セッティング ステップ3

3.3 - 風上からランチングするためのセットアップ

アップウインド用ランチング・セッティング

これはセルフランチングに必要な事項です。

- 1☒ カイトの風上側30mのところにバーを置きます。リーディングエッジはバーの方向、風上を向いた状態で置きます。カイトのウイングチップはバーと反対方向を向いています。コントロールバーは上向きに置かれています。
- 2☒ ステアリングラインをほどこき、2本のラインを4フィートほど離して平行に、カイトの近くまで地面に置いていきます。（黄色いシートは左、黒いシートは右です）
- 3☒ カイトがラインの間に入るくらいにラインの間隔を広げます。
- 4☒ デパワーラインの所に行き、それぞれが平行になるようにデパワーラインをステアリングラインの間に置きます。4本のラインの順番は左から右に、黄色付き黄色ライン、黄色付き白いライン、黒付き白いライン、黒付き黒いラインとなります。すべてのラインが交差したりねじれないことを確認します。
- 5☒ カイトのウイングチップが風下を向くようにステアリングラインの端に近いデパワーライン上にカイトを置きます。
- 6☒ カイトが砂や砂袋で固定されていることを確認してください。
- 7☒ カイトの外側にあるステアリングラインをウイングチップにある後方ブライダルに接続します（黄色は黄色と、黒は黒と接続します）。ラークヘッド・ノットを使い、ブライダルの中央にあるノットとステアリングラインを繋ぎます。念のためにノットを強く閉めます。
- 8☒ カイトの内側にあるデパワーラインをラークヘッド・ノットを使い、リーディングエッジのブライダルに接続します（黄色は黄色と、黒は黒と接続します）。念のためにノットを強く閉めます。
- 9☒ 再びライン同士が交差せず、ねじれないことを確認します。カイトの飛行への準備は終了です。安全に関するこのマニュアルの項を熟読し、コンディションをよく理解した上で海上に出ましょう。カイトのチューニングに関しては、このマニュアルの4ラインチューニングの項にあります。



*diagram not to scale

セッティング ステップ4

カイトのチューニング

カイトのチューニング

コントラやナイトロ、CO2、エレメントは最高のパフォーマンスを持つカイトです。さらにきちんとチューニングされたカイトはスピードアップし、デパワー機能も高まります。以下の項でライダーのスタイルに合わせてカイトをチューニングするためのガイドを紹介します。

- 1☒ 全てのモデルにはそれぞれ理想的なスイートスポットが設定されており、これによってステアリングとデパワーラインがきちんと働くようになります。チューニングはセンターライン調節ストラップ(CAS)の微妙な調節によって行います。
- 2☒ カイトを引き込み過ぎないようにご注意ください。カイトが空を横切っている時に、カイトから最大のパワーが生まれます。より強いパワーを求める場合は、ステアリング（後ろ）ラインにテンションをかけます。これはカイトを引き込むことです。バックラインにテンションがかかったカイトはゆっくりと上空で動き、パワーウインドウの端に移動せずに済みます。
- 3☒ カイトが頭の上にある場合、ハーネスループを使用しハーネスを引き込みながら空気の入ったバテンとウイングチップの関係を観察します。きちんとチューニングされたカイトのウイングチップはバテンと平行になり、ステアリングライン（バックライン）にテンションがかかります（図1）。ウイングチップがリーディングエッジの部分で外側に曲がっている場合は、カイトの引き込み過ぎです（図2）。
- 4☒ 引き込みを緩めパワーを下げる方法は、センターライン調節ストラップを効果が表れるまで引くことです。センターライン調節ストラップを引くとカイトのパワーは減少します。またパワーロック・ループを使用してもカイトのパワーを減少させることができるので、センターライン調節ストラップだけを用いた操作を行わず、組み合わせで効果を高めてください。カイトのパワーを高めるためにはセンターライン調節ストラップにあるブラスチックループを引き上げてください。

ライダー視線のカイト

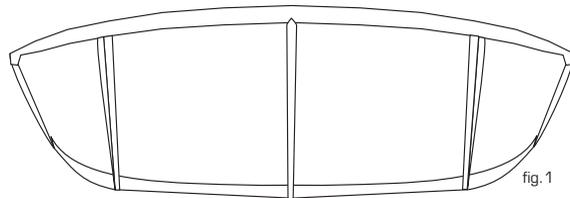


fig.1

**Oversheeted wingtip
(too much back line tension)**

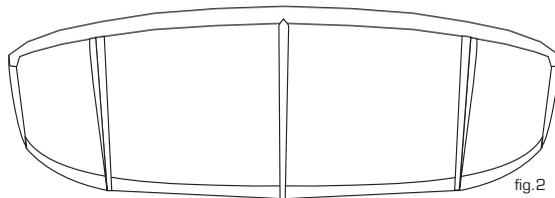


fig.2

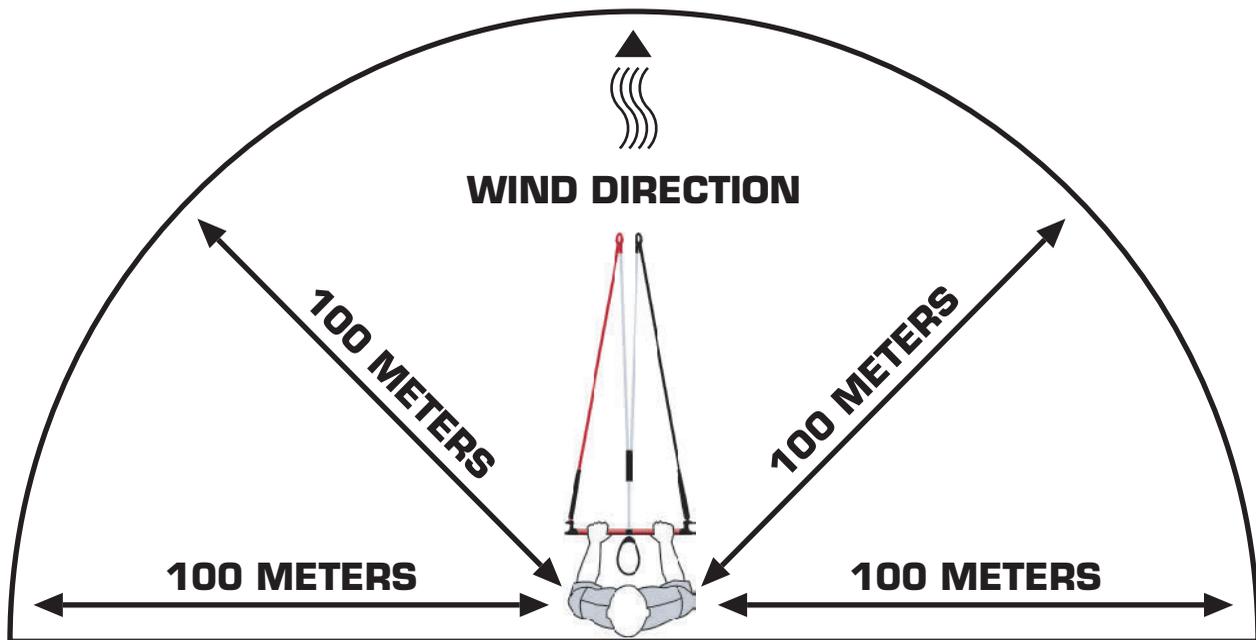
Correct Trim

カイトボードの基本

使用可能なエリア

使用可能なエリア

両サイドとライダーの風下側に100mの余裕が必要です。ライダーが他の人、物に対して安全を確保するため十分なエリアがとれない場合は、カイトをランチングしないでください。



カイトボードの基本

カイトのポジション、ゾーンとパワー

カイトをランチングする前にパワーゾーンに対する知識を知ることが大切なことです。カイトボーディングに関する多くの事故は陸上で起こり、またニュートラルポジションと呼ばれるポジションにカイトがあるときに起こっています。多くの人はニュートラルポジションにあるカイトは安定していると考えています。しかし風は絶えず変化し、それによってニュートラルポジションにあるカイトはリフティングと呼ばれる現象が起こってライダーから遠ざかる動きをします。ブローが入るとカイトは突然パワーを生み、そのパワーはライダーにとってはカイトを頭上にキープしておくには強すぎる状態となります。そのためライダーは空中に持ち上げられてしまいます。リフティングは危険です。しかしパワーゾーンについて理解することによってリフティングに陥る可能性をできるだけ避け、陸上でカイトをニュートラルポジションで保たないようにすることができます。

ニュートラル・ポジション

これはライダーの頭上にカイトがあるポジションです。ライダーがバーを水平に持ち上げれば、カイトはこのニュートラルポジションに向かいます。しかしカイトをこのポジションに保つことは難しく危険を伴います。このポジションのカイトは安定し、パワーやライダーを引く力が弱いように感じられるかもしれませんが、陸上ではライダーがリフティングに陥りやすいポジションでもあります。海上ではボードを手繰り寄せるときなどに休憩のために使われる便利なポジションですが、陸上ではニュートラルポジションでのカイト飛行を極力避けることを強くお勧めします。ランチングの後、いち早く海上に向かうためです。カイトをニュートラルポジションにして長い時間陸上に行わないでください。これは大変危険な行為です。

ニュートラル・ゾーン

ニュートラル・ポジションを中心に左右に幅を広げたエリアです。飛行を開始するためにカイトを飛上方向に向けるためのエリアです。この位置からカイトは最も強いパワーを発する状態に入ります。陸上やガスティブなコンディションの時は特に、このゾーンにカイトがある場合は注意が必要です。

パワー・ゾーン

ライダーの前と斜め前方にあるこの位置のカイトは、ニュートラル・ポジションやゾーンと比べ、パワフルです。このエリアにあるカイトは最もパワフルで、ライダーを引く力が強い状態です。このエリアにあるカイトはパワフルで危険を伴うの



で、練習中のライダーはできるだけこのエリアでのカイトの使用を避けましょう。カイトがこのゾーンにある場合、注意が必要です。

パワーについて

カイトのパワーを増長させるための一つの方法は、上空でカイトを上から下へ、下から上へと絶えず動かすことです。カイトを上空で動かすことによってリフトを生み、カイトはパワーアップします。特に練習中のライダーはこのことを頭に入れておいてください。カイトを動かすことによってパワーが生まれ、カイトはスピードアップしますので、そのための準備が必要です。

風が足りないときにはこの特徴を利用し、プレーニングに必要なパワーとスピードをつくり出すことが可能です。

ステアリングとランチング、ランディング

カイトの操作方法

ステアリング

覚えておきたいキーポイント

- ☒ 陸上でカイト操作を練習している場合、カイトには非常にパワーがあるということを頭に入れておいてください。安全に十分に留意してください。まずカブリナのトレーニングカイトを使い、カイトの操作方法を体得し、その技術を充分にあげることをお勧めします。その後パワーカイトを使って、海上でボディドラッグを練習しましょう。
- ☒ 最初にカイトを飛ばす練習をする場合、カイトから目を離さないようにしましょう。
- ☒ ゆっくり操作しましょう。コントロールバーを急激に動かさないようにしてください。
- ☒ カイトのパワーを絶えず充分に考慮してください。
- ☒ 決して車のハンドルのようにコントロールバーを操作しないでください。カイト操作を困難にし、操作不能に陥る可能性があります。

カイトを左に移動させる方法

- 1☒ 両手でバーを持ち、手を肩幅に広げます。

- 2☒ カイトから目を離さない状態で、左手を身体に近付けるようにコントロールバーを引きます。

- 3☒ これは左ひじを曲げ、右ひじを伸ばすような形になります。片方の腕を伸ばすことが重要です。同時に両腕を身体の方に曲げないでください。

- 4☒ ゆっくりと操作します。素早い動きはカイトのターンのスピードを速め、より強いパワーを生みます。

- 5☒ カイトがターンし始めたら、違う操作を加えるまでカイトは左回転し続けます。

- 6☒ カイトをニュートラルポジションに戻す準備をします。



カイトを右に移動させる方法

- 1☒ 両手でバーを持ち、手を肩幅に広げます。

- 2☒ カイトから目を離さない状態で、右手を身体に近付けるようにコントロールバーを引きます。

- 3☒ これは右ひじを曲げ、左ひじを伸ばすような形になります。片方の腕を伸ばすことが重要です。同時に両腕を身体の方に曲げないでください。

- 4☒ ゆっくりと操作します。素早い動きはカイトのターンのスピードを速め、より強いパワーを生みます。

- 5☒ カイトがターンし始めたら、違う操作を加えるまでカイトは右回転し続けます。

- 6☒ カイトをニュートラルポジションに戻す準備をします。

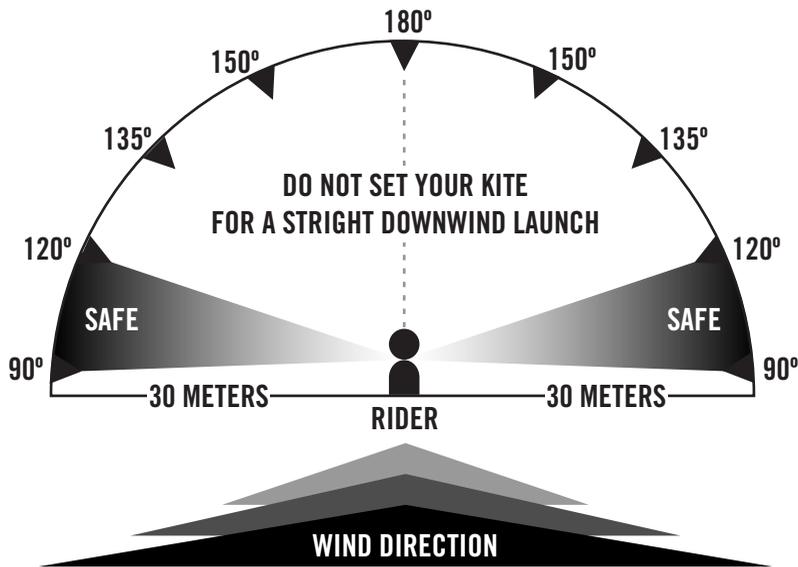


ステアリングとランチング、ランディング

ランチングの準備

ランチングの準備

- ☒ ライダーの左右と風下側に100m以上なにもないスペースを確保します。
- ☒ ライダーが立つポイントより風下側にカイトがランチングすることを考慮し、道具を置きます。
- ☒ ライダーの真風下でカイトをランチングしないでください。このエリアのカイトはパワーがありすぎるためライダーや周りに危険を及ぼす可能性が高いエリアです。周りの安全に充分留意してください。
- ☒ 基本的にライダーが背中から風を受けている場合、真風下は180度の角度となります。ライダーの左右100度の角度で風下側にカイトがセッティングされるようにしてください。
- ☒ ランチング時にカイトが風上に向かっていればカイトのパワーは少ないので、安全なランチングに最適です。
- ☒ ライダーがコントロールバーを持ち、カイトから30m離れる間、パートナーにカイトを持ってもらう方法が理想的です。
- ☒ ランチングはゆっくりと安全に行ってください。カイトのランチング時の角度を考え、決して真風下からランチングしないでください。



ステアリングとランチング、ランディング

パートナーとのランチング

パートナーとのランチング

- 1☒ ランチングする前にタップアウト付きのレコンリリース・システムとQRSを使いこなせるようにし、必要なときに動作できるようにしてください。これらのシステムがきちんとセッティングされていることを確認してください。
- 2☒ 次にラインやギア、ランチング場所をチェックし、それが万全ならばカイトをランチングする準備は完了です。
- 3☒ ランチングする前にパートナーとライダーの双方が理解できる、リリースのときの合図を打ち合わせておきます。
- 4☒ タップアウトをラウンチモードにセットします。
- 5☒ 次に安全ピンをセットします。
- 6☒ 風下100度のところにカイトを持ってパートナーに立ってもらいます。
- 7☒ パートナーにはリーディングエッジの中央を持ってもらい、リーディングエッジが垂直に風に向かうようにします。
- 8☒ パートナーはカイトの裏側に立ち、カイトの横や前に立たないようにします。
- 9☒ パートナーが決してブライダルやフライイングラインに触れないよう、注意してください。
- 10☒ コントロールバーを胸の高さに持ち、フライイングラインのたるみを取り除くために数歩後ろに下がります。
- 11☒ バイパスリーシュを使っている場合、ランチングの際にハーネルループを使用しないでください。バイパスリーシュを使っていない場合はハーネルループを使用しますが、必要に応じてタップアウト付きレコンリリース・システムを 작동するか、ハーネルループにあるQRSを使用する準備をしておいてください。
- 12☒ カイトを離すよう、パートナーに合図します。カイトがパートナーの手を離れた瞬間からライダーがカイト操作を行います。
- 13☒ パートナーはカイトを上空に投げてはいけません。ランチング前にパートナーに実際にカイトを投げてみましょう。上空に投げられたカイトはその性能を発揮することができず、通常通りのランチングをすることができません。その際カイトは強すぎるパワーを発するか全くランチングしない状態になります。この方法は危険なランチングです。
- 14☒ カイトを離れたパートナーは、ライダーの風上に移動し、ライダーの妨げとならないようにします。
- 15☒ ゆっくりとカイトをパワーウィンドウの端に移動するよう操作します。急激な動きは避けましょう。十分にカイトをコントロールしながらゆっくりと移動させます。
- 16☒ カイトがパワーウィンドウの端に到達したら、背中から風を受ける状態でゆっくりと水際に向かいます。その際カイトを絶えずチェックしていきましょう。いつでもカイトの動きを把握しておく必要があります。
- 17☒ ランチングの際に少しでも不都合が生じたときは、最初にレコンリリース・システム、次にQRSを使うよう準備しておきます。
- 18☒ 警告：ランチングの最中に風が強ければ強いほど、全てがスピードアップして起こります。そのためにもゆっくりとした安全なカイト操作が不可欠です。
- 19☒ タップアウト付きレコンリリース・システムがラウンチモードにセットしてあることを確認してください。
- 20☒ 障害物から距離がある海上に到達した後、タップアウト付きレコンリリース・システムをライドモードに変更できます。このモードはタップアウトの機能が働きません。リリースプレートのカイト方向に手動で押すことによって、カイトはシャットダウンするかデパワーします。

ステアリングとランチング、ランディング

セルフ・ランチング

セルフ・ランチング

- 1☒ カイトのリーディングエッジを風上に向け、風向きから100度から110度の方向にリーディングエッジを下にして地面に置きます。
- 2☒ カイトが飛ばないように、砂や砂袋で固定します。尖ったものでカイトを固定するのは避けてください。
- 3☒ ラインをほどき、カイトからライダーがランチング時に立つ位置までラインを伸ばします。
- 4☒ ランチングする前にタップアウト付きのレコンリリース・システムとQRSを使いこなせるようにし、必要なときに動作できるようにしてください。これらのシステムがきちんとセッティングされていることを確認してください。
- 5☒ 次にラインやギア、ランチング場所をチェックし、それが万全ならばカイトをランチングする準備は完了です。
- 6☒ すべてのラインがきちんと接続され、ねじれや交差した箇所がないことを確認します。
- 7☒ ラインやギア、ランチング場所をチェックし、それが万全ならばカイトをセルフ・ランチングする準備は完了です。カイトを表向きしリーディングエッジが風上に向かうように置き換えます。(図1)
- 8☒ ウイングチップのボトムを(地面に一番近い部分)カイトに重ねるように折り曲げます。一番近い位置のあるパテンまで折り曲げましょう。(図2)
- 9☒ 折り曲げたウイングチップに砂や砂袋など、重りを乗せます。(図3)
- 10☒ セルフ・ランチングの場合、フライングラインとブライダルはパテンの上に乗らないようにします。
- 11☒ 通常の働きを妨げる砂やゴミなどをレコン・テンション・フィッティングから取り除きます。
- 12☒ 急いでバーのところに戻り、風上側のカイトのラインがないところに立ちます。
- 13☒ バイパス・リーシュを使う場合はここでセットします。バイパス・リーシュを使う場合はステップ14に進んでください。
- 14☒ レコンリリース・システムをラウンチモードにセットします。
- 15☒ デパワーループにハーネスをかけ、タップアウト付きレコンリリース・システムが作動するように準備をします。
- 16☒ コントロールバーを両手で胸の高さに持ち、フラ

イイングラインのたるみを除くために数歩後ろに下がります。

- 17☒ この動作によりウイングチップに乗せた砂や砂袋などの重りがウイングチップから落ちます。(図4)
- 18☒ 数歩後ろに下がり操作を続ける、とカイトは上空に浮かび、風をつかんだカイトは上昇を続けます。(図5)
- 19☒ ゆっくりとカイトをパワーウィンドウの端まで移動させます。急激な動作は一切しないでください。ゆっくりとカイトを操作すれば、カイトは安全に充分コントロールできる状態を保ちます。(図6)
- 20☒ 背中から風を受けながらカイトをパワーウィンドウの端まで移動させたら、水際に向けてゆっくりと歩きます。その際カイトに神経を集中させてください。いつでもカイトの動きを把握しておく必要があります。
- 21☒ ランチングの際に少しでも不都合が生じたときは、最初にレコンリリース・システム、次にQRSを使うよう準備しておきます。

警告：ランチングの最中に風が強ければ強いほど、全てがスピードアップして起こります。そのためにもゆっくりとした安全なカイト操作が不可欠です。

セルフラウンチではカイトを立てた状態でラインを伸ばす作業をしないでください。カイトをセルフラウンチのポジションに置く前にラインがきちんと伸ばして地面に置かれ、正常に接続されていることを確認してください。ラインを伸ばして地面に置く作業すると、カイトがラウンチしてしまう可能性があります。

タップアウト付きレコンリリース・システムがラウンチモードにセットしてあることを確認してください。

コツ：通常の働きを妨げる砂やゴミなどがレコン・テンション・フィッティングにつかないよう、特に注意しましょう。

障害物から距離がある海上に到達した後、タップアウト付きレコンリリース・システムをライドモードに変更できます。このモードはタップアウトの機能が働きません。リリースプレートのカイト方向に手で押すことによって、カイトはシャットダウンするかデパワーします。



ステアリングとランチング、ランディング

パートナーとのランディング

パートナーとのランディング

1. ランチングする前にパートナーにカイトの正しいランディングについて説明しておきましょう。
2. ランチング前に必ずランディングに必要なスペースを確保しておきましょう。
3. 2の項目を確認したうえで、水際に向かうときにも、ランディングの場所に人がいないことや障害物がないことを確認します。
4. カイトの近くや風上に何かある場合、ランディングしてはいけません。人やペット、電線、木、その他障害物がない場所にランディングしてください。
5. 水際に近づく際には、カイトをパワーウィンドウの端で海面に近い低い位置に保ちます。
6. ボードから飛び下りて水際までの最後の距離はボディドラッグで進みます。スピードをつけて水際に近付いてはいけません。
7. ゆっくりと風上のパートナーのところにカイトを移動させます。
8. パートナーは風上方向からカイトに近付きます。
9. カイトが地面に付きそうになったところで、パートナーはリーディングエッジの中央部分を掴みます。パートナーはランチング時と同じ箇所を持ってください。
10. パートナーはブライダルやフライングラインを持たないように、注意してください。
11. パートナーがウイングチップを持たないように、注意してください。ウイングチップを持たれたカイトはフリップやスピンなど、回転動作を行います。この状態のカイトは非常に危険です。
12. パートナーはカイトのリーディングエッジを持った後、水際から離れます。
13. パートナーはカイトを持ち続けるか、あるいはリーディングエッジを風上にし地面につけて、バデンの間に砂や砂袋を乗せて、安全をはかった状態にします。
14. カイトを安全にランディングさせた後、ラインを巻きましょう。

リランチング

重要なポイント:リーディングエッジを含め正しくバテンに空気が入ったカイトは海上でのリランチが可能で、水に入る前にカイトに十分な空気が入っているか確認しましょう。

1. カイトが水面に落ちた場合、ライダーの意志とは関係なくカイト自体がリランチすることを覚えておきましょう。カイトが水面に落ちた場合は心構えが必要です。
2. カイトがリーディングエッジ側から海面に落ちた場合、リーディングエッジとバテンは水に浸かります。この状態からカイトをリランチの状態にするまでの操作をまず行います。
3. ステアリング（外側）リーダーラインにはそれぞれ、カイトのリランチを助けるリランチ・アシスト・ボールグリップがついています。
4. 外側のラインのどちらか1本をつかみ、ボールを持ってリーダーラインを身体の方に引き寄せます。レコン・テンション・フィッティング(RTF)からレコン・バレットがはずれるように、強く引き寄せます。
5. バレットが外れたら、カイトのトレーリングエッジが働き、リーディングエッジの片側が持ち上がってきます。
6. カイトは片側のリーディングエッジが持ち上がった後、ウィンドウの端に移動します。操作を加えてカイトをウィンドウの端まで移動させます。カイトをリランチする直前まで、同じリーダーラインを持ったままです。
7. 風が弱いときなど、カイトがウィンドウの端に到達するまで時間がかかります。そうした場合でもカイトの動きを妨げるだけなので、我慢できずにバーの両側を引かないでください。左右、最初に選んだサイドを保ちカイトが動くのを待ちましょう。
8. カイトのリランチの準備ができたなら、リーダーラインを離し

カイトを上空に上げます。ゆっくりとカイトを操作して上空に上げ、バーを水平に持ち上げましょう。

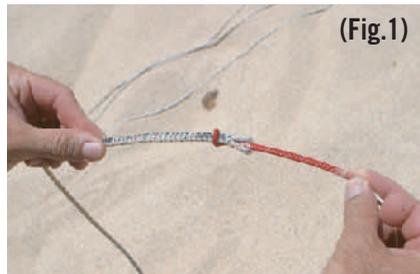
9. 通常のライディングに戻り、フライイングラインにテンションがかかると、カイトのウイングチップにあるレコン・テンション・フィッティング(RTF)にレコン・バレットは自動的に戻ります。

フライイングラインの交換 パワーロック・コントロール・システム (パワーロックCS)

コントロール・システムやフライイングラインを交換するには、まずリーダーラインについている現行のフライイングラインを取り外す必要があります。その後、現行のリーダーラインに新しいフライイングラインをつけ調節作業を行います。

リーダーラインに新しいフライイングラインを取付け

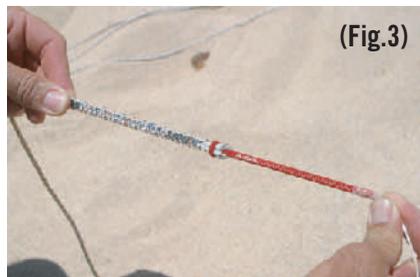
1. ラインを結んでその長さが均等かどうかチェックする杭や木から、少なくとも30m離れた地面にコントロール・システムを上向きにして置きます。
2. 杭とコントロールバーの間に色分けされたフライイングラインを伸ばして置きます。前（内側）デパワーラインと後（外側）ステアリングラインの4本のラインがあります。
3. フライイングラインにねじれや交差した箇所がないことを確認してください。これはラインを両手に持って、ラインに沿って歩くことによってチェックできます。ラインがまっすぐになったら、ラインの端からコントロールバーを見て以下の順番にラインを並べ変えます。左から右：黄色いステアリングライン、黄色付き白いデパワーライン、黒付き白いデパワーライン、黒いステアリングライン。
4. ラークヘッドとラークヘッドを繋ぐ方法でステアリングラインとリーダーラインを接続します。（図1）コントロールラインの端にあるロープにリーダーを通します。次にリーダーにあるループにコントロールラインに端を通します。この状態からコントロールラインをすべて引くと、きちんとした状態で接続されます。（図1a）
5. 安全に接続するために、接続部分を強くひっばってください。（図2a）
6. センターラインを交換するためには、最初にデパワー・フライイングラインのそれぞれにラークヘッド・ループをつくります。センターライン調節ストラップ(CAS)にある左のリーダーライン上のノットに黄色付きのループを取り付けます。安全のため接続部分を強くひっばってください。次にセンターライン調節ストラップ(CAS)にある右のリーダーライン上のノットに黒付きのループを取り付けます。安全のため接続部分を強くひっばってください。
7. これでリーダーラインにフライイングラインが安全に接続されたので、ラインの長さが均等かどうかチェックする準備に入ります。



(Fig.1)



(Fig.2)



(Fig.3)

カイトのファブリックのリペア

大きな引き裂け

カイトのファブリックに引き裂けができた場合、販売店にカイトのリペアをしてくれるロフトを紹介してもらいましょう。

小さい引き裂け

カイトのファブリックの小さい引き裂けはカイトリペア・テープで修復可能です。リペアテープは販売店で購入できます。

1. カイトをきれいにし完全に乾かします。
2. カイトを平らで凹凸のないきれいな所に広げます。
3. 引き裂けが完全に隠れる程度の大きさにリペアテープを2つ切ります。
4. リペアテープの1つで引き裂けの片面を注意しながら完全に被います。カイトの表面にテープをこすりつけて密着させましょう。
5. 引き裂けの裏面にもうひとつのリペアテープを張り付け、同じように密着させます。
6. 両面のテープがしっかりと接着されていることを確認します。

覚えておきたいポイント

- ☒ カイトのブラダーのひとつをリペアする前に、カイトがきれいな状態で完全に乾いていることを確認します。常にポンプとブラダーには砂がついていない状態を保ち、完全に乾かして汚れを拭き取ります。
- ☒ ブラダーに空気が貯まっていないことを確認します。
- ☒ ビーチや汚れた場所、埃の多い場所、風が吹いている場所でのリペアは避けてください。風がないきれいで乾いた場所がリペアに最適です。さらに床など、下がスベスベした所が理想的です。
- ☒ ブラダーをリペアする前にフライングラインのセットとブラダー・リペア・キット（カイトに付属）を用意します。

バテン・ブラダーのリペア

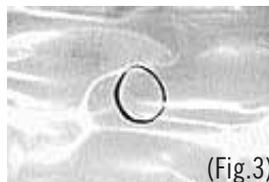
1. ☒ バテンを上に向けてカイトを置きます。
2. ☒ 傷付いたバテンのベルク口開閉口をはずします。これによってバテンのスリーブを開き、ブラダーを取り出すことが可能になります。（図1）
3. ☒ 空気挿入ホールにあるベルク口開閉口からバルブを取り外し、バテンのスリーブとノズルを離します。これによってブラダーがスリーブから離れます。バルブプラグのトラックは後で使うので、大切にしておきます。
4. ☒ バルブのひとつにフライングラインを結びます。バルブの根元にしっかりと結びましょう。バルブのノズルを通して結ばないでください。破損の恐れがあります。
5. ☒ バテンのスリーブにゆっくりとバルブを差し込みます。
6. ☒ スリーブの底に手を当て、スリーブからそとブラダーを引き抜きます。その際フライングラインはスリーブに通したままにしておきます。（図2参照）スリーブにフライングラインを通したままにするのは、リペアが終わった段階でブラダーを元の位置に戻しやすくするためです。（図2）
7. ☒ ブラダーに空気を送り込み、バルブを差し込みます。ブラダーを膨らませ過ぎないように注意してください。
8. ☒ 穴の開いた箇所を調べるためにブラダーを水に沈めます。バスタブなど、大量の水がある場所の方が楽に動作を行うことができます。
9. ☒ 泡の発生によって穴の位置を見分けます。
10. ☒ 気が漏れている箇所を見つけたら、穴の周りに丸を書き込んで印をつけます。油性ペンで書くことをお勧めします。（図3）
11. ☒ さらかいたオルでブラダー全体の水気をきれいに拭き取ります。
12. ☒ ブラダーから空気を抜きます。
13. ☒ 着剤を使うか、ブラダー・リペアキットの中にあるパッチを使うか決めます。
14. ☒ 穴がシームにかかっている場合には接着剤が必要になります。
15. ☒ 穴がブラダーの平らな面の一部にある場合には、パッチのひとつの裏紙をはがし、パッチをブラダーに張り付けます。穴を完全に被うように注意します。
16. ☒ 完全に乾かすため、少なくとも20分はブラダーをそのままにしておきます。
17. ☒ ブラダーに空気を入れ、穴が完全にふさがったかどうかチェックします。
18. ☒ ブラダーの穴を修理した後、ブラダーを元に戻しやすいようにベビーパウダーなどでブラダーをコーティングすると作業が簡単です。
19. ☒ ブラダーから空気を抜きます。
20. ☒ ベルク口開閉口からブラダーをバテン内に戻します。バルブノズルにフライングラインを結び、バルブノズル側からベルク口開閉口に引き入れます。
21. ☒ バテンの端にブラダーを平らに置き、スリーブにブラダーを戻します。
22. ☒ バルブをゆっくりとスリーブに戻し、ブラダー全体がスリーブに入るようにします。
23. ☒ バルブノズルがホールの近くまで移動し、ブラダーがしっかりとスリーブ内に修まのように慎重に動作を行います。
24. ☒ ブラダーが元に戻ったら、スリーブのホールにバルブを戻します。
25. ☒ ホールのベルク口を取り付けます。（図4）
26. ☒ バルブプラグを取り付けます。
27. ☒ スリーブの隅々までブラダーが行き渡っているかどうか調べるために、バテンに空気を入れます。
28. ☒ 完全にバテンに空気を入れてチェックが終わったら、空気を抜いてカイトを片付けます。



(Fig.1)



(Fig.2)



(Fig.3)



(Fig.4)



リーディングエッジのブラダー・リペア

1. パテンが上を向くように置きます。
2. リーディングエッジ (LE) ・ブラダーの両端は折り返しになった所にベルクロ開閉口がついています。LEの中央にはジッパーで開閉できるポケットもついています。ベルクロ開閉口をはずし、ポケットのジッパーを開いてください。これによってスリーブが開くようになりブラダーに触ることが可能になります。(図1&2)
3. リーディングエッジについているエアロックバルブをはずします。リテーナーリングをブラダーから慎重にはずします。バルブは後のために大切にしておきます。(図3~5)
4. バルブがスリーブと別になるよう、スタンダードバルブにあるバルブプラグをベルクロ開閉口と離します。この作業はスリーブからブラダーを取り外すために必要です。バルブプラグのトラックを後のために大切にしておきます。
5. 次に、フライングラインを2本用意します。1本のラインをブラダーの端に結びます。ラインはしっかりと結びましょう。2つめのラインを使って、同じ動作を反対側のリーディングエッジのブラダー端にも行います。(図6)
6. バルブをスリーブのなかにそっと押し込みます。
7. リーディングエッジ・バルブに近いジッパー付きポケットに手を入れ、リーディングエッジ・ブラダーに触ります。(図7)
8. ブラダーの片側全部をポケットから引き抜きます。フライングラインはスリーブに通ったままにしておきます。スリーブに通ったフライングラインはリペア後ブラダーを元の位置に戻す時に使います。
9. スリーブから出したブラダーには空気を入れ、空気が抜けないように両方のバルブを閉めます。ブラダーを膨らませ過ぎないように、注意してください。
10. 穴の開いた箇所を調べるためにブラダーを水に沈めます。バスタブなど、大量の水がある場所の方が楽に動作を行うことができます。泡の発生によって穴の位置がわかります。
11. 空気が漏れている箇所を見つけたら、穴の周りに丸を書き込んで印をつけます。油性ペンで書くことをお勧めします。(図8)
12. 柔らかいタオルでブラダー全体の水気をきれいに拭き取ります。
13. ブラダーから空気を抜きます。
14. 接着剤を使うか、ブラダー・リペアキットの中にあるパッチを使うか決めます。
15. 穴がシームにかかっている場合には接着剤が必要になります。



リーディングエッジのブラダー・リペア

16. 穴がブラダーの平らな面の一部にある場合には、パッチのひとつの裏紙をはがし、パッチをブラダーに張り付けます。穴を完全に被うように注意します。
17. 完全に乾かすため、少なくとも20分はブラダーをそのままにしておきます。
18. 再びブラダーに空気を入れ、穴が完全にふさがったかどうかチェックします。
19. ブラダーから空気を抜きます。
20. ブラダーの端にフライングラインを結び、バルブノズルは開いた状態にします。
21. ブラダーをポケット近くに平らに置き、蛇腹状に畳んでスリーブに戻しやすくします。
22. 片側からスタートし、ポケットからブラダーを元の位置に戻していきます。リーディングエッジの片端に歩いていき、スリーブを持ちながらフライングラインをゆっくりと引きます。ブラダーがゆっくりとスリーブ中の元の位置に戻ります。
24. ブラダーのもう片側にも同じ動作を行います。バルブがホールの近くまで移動し、ブラダーがしっかりとスリーブ内に修まるまで慎重に作業を行います。
25. ブラダーをスリーブの端まできちんと押し込みます。(図1)
26. ブラダーが元の場所に収まったらスリーブのホールを通してバルブを元の位置に戻します。(図2)
27. スタンダードバルブを元の位置に戻しバルブプラグをベルクロに戻します。(図3)
28. ジッパーが内蔵ブラダーをかまないように注意してください。LEの中央ポケットのジッパーを閉じます。ウイングチ

ップのポケットを閉め、ベルクロでとめます。

29. エアーロックバルブを取り付けます。
30. スリーブの隅々までブラダーが行き渡っているか、ブラダーがねじれていないか調べるためにブラダーに空気を入れます。(ねじれていたらブラダーを入れ直してください)
31. 完全にブラダーが収納できたらリーディングエッジを完全に膨らませるか、カイトを収納するために空気を抜きましょう。

カイトのケア

カイトボーディングを長く楽しむため、セッティング時やライディング時のカイトの取扱いを慎重に行い、安全にギアを取扱しましょう。

セッションの準備

- 安全のための道具（ヘルメットなど）が壊れていないか、確認しましょう。
- カイトやコントロール・システムをこまめにチェックし、空気もれや引き裂け、キャンピーやバテンの擦れ、レコンシステムの異常をいち早く発見するようにしましょう。フライイングラインにも擦れやほじけない結び目がないことを確認します。これがフライイングラインの寿命に影響を与えます。
- アスファルトやセラミック、砂利など、摩擦の大きい所でセッティングするのは止めてください。道具を痛める恐れが多分にあります。砂や芝生の上でセッティングするのが理想です。摩擦や尖ったものがある所でセッティングした際に生じたダメージは保証範囲外となります。
- キャンピーをやぶったり、バテンやリーディングエッジの空気もれを起こすような、尖ったもののある所でセッティングしないでください。
- レコンシステムやフライイングラインを傷つけるような尖った物のある場所でそれらを広げないように、注意してください。

セッションの途中で

- 長時間、空気を挿入したカイトを人の手から離れた状態でビーチに放置しないでください。風がシフトしたり風向きが変わることによって、カイトの安全性が保たれなくなり飛んでいってしまう恐れがあります。
- 空気を挿入した状態のカイトを（重りを乗せていても）長時間ビーチで風に吹かれた状態にしないでください。これによってトレーリングエッジが絶えず風に吹かれた状態となり、カイトを痛める原因となります。もし長時間ビーチにカイトを置かなければならないときは、バテンやトレーリングエッジなど、カイトの広範囲に砂を乗せパタつきをなくした状態にしてください。
- 使用していないカイトでは、レコン・テンション・フィッティングにレコン・パレットがリセットされていることを確認してください。
- ランチングの前やカイト収納前には、RTFに砂やゴミが一切ないことを確認してください。
- 長時間、太陽光線のもとにカイトを広げておかないでください。セッションの合間にはカイトを安全な場所に保管できる日陰を探してください。使用していないときは片付けましょう。

きちんとした収納

- 真水でカイトを洗い、よく乾かした後、丸めて収納することをお勧めします。
- 濡れているときにカイトを丸めしないでください。
- 収納前には異物や砂を取り除き、カイトをきれいな状態にしてください。
- カイトがきれいな状態で完全に乾いたら、購入時に入っていたバッグに入れ、乾いた涼しい所に保管してください。
- カイトの入ったバッグの上に重いものを乗せることは、カーボンロッドを痛める原因となります。
- 空気を挿入したカイトを車の中や車上の収納ボックスに入れてままにしないでください。気温の変化によってカイトが破裂する恐れがあり、これによって内蔵ブラダーは深刻なダメージを受けます。
- 真水を溜めたバケツにコントロール・システム全体（ラインをバーに巻いたまま）を5分つけるという方法で、使用することにコントロール・システムを洗ってください。その後、完全に乾かして、乾燥した場所にしまってください。
- コントロール・システムがきれいな状態で乾燥したら、購入時に入っていたバッグに入れ乾いた涼しい所に保管してください。

ビーチでのエチケット

ビーチや海面を他のユーザーと共有するために考えられる基本的なエチケットです。

安全

このマニュアルの安全について記載されている項目を熟読しましょう。

使用ビーチに掲げられている安全やルールに関する看板や掲示物をよく読み、それに従いましょう。

新しいポイントでランチングする前に地元のカイトボーディング協会やショップに行きましょう。看板や掲示物にない地元のルールや規則がある可能性があります。

一般的な安全認識に従いましょう。

バーやカイトなど、他の人の道具に触ったり、チューニングをしたりしないようにしましょう。

常にカイトは砂や砂袋を使って安全を保ってください。ライダーが操作していないカイトは危険です。

空気を入れた状態のカイトをライダーから離れた所に置かないでください。風向きが変わりカイトが不用意に飛んでしまう危険を避けるためです。

セッティング

使う道具だけをセッティングしましょう。使用していないカイトは空気を抜いて、ただちに片付けましょう。

○
十分なスペースがあるところでセッティングしましょう。

○
他のビーチユーザーのことを十分に配慮し、セッティングしましょう。

使用時以外はライン類を巻いておきましょう。

ランチングやランディング、ライディング時には絶えず他のビーチユーザー、海面にいる人のことを配慮しましょう。

他のビーチユーザーに譲る心を持ちましょう。

常に必要に応じて他のカイトボーダーの助けをかりられるようにしておきましょう。他のカイトボーダーと助け合いましょう。

トレーニングカイト／カイト・ボーディングに使用するカイトの動きをシミュレーションする陸上で使用する練習用カイト。非常に優れたトレーニング用の道具です。サイズは小さくても十分なパワーがあるので、使用時には注意が必要です。

インフレーターブル・カイト／浮力を持たせるように空気をいれたチューブのついたカイト。リランチが簡単に行えます。

4ライン・インフレーターブル・カイト／4本のフライングラインと空気を入れるチューブがついたリランチが簡単に行えるカイト。

バテン／カイトの外側を被うファブリック製の部位。空気を挿入しカイトの骨組みとなる内蔵ブラダーを被います。

ブラダー／リーディングエッジとバテンに内蔵された空気を挿入するチューブ。(自転車タイヤのように内側に空気を入れるチューブが入るシステムになっています)

レコン安全リーシュ&リランチ・システム／カブリナが独自に開発した技術で、すべての2004年と2005年モデルに搭載されているシステムです。ライダーが必要となしにただちにカイトをデパワーできるレコン付きクイックリリース・システムです。安全なリーシュとリランチのシステムです。

クイックリリース (QRS) 安全システム／非常時にライダーが使うコントロールシステムの接続ポイント。QRSハーネスリーシュはライダーとカイトを繋いでいますが、非常時にライダーによって簡単にはずすことができるデザインです。

バイパス・リーシュ／初めてカイトボーディングする人やスクールなど、ハーネスループを使えない人にお勧めの安全なリーシュです。このリーシュのシステムはボードを手で快適に操作できるよう、両手が自由になるものです。

コントロールバー／カイトを操作するとき用いる、ライダーにとってハンドルのような役割をするもの。

ブライダル／カイトのウイングチップから下がっているライン。カイトとコントロールバーをつなぐために用いるフライングラインはこのブライダルに結びます。

リーダーライン／コントロールバーに直接つけるライン。バーとフライングラインを接続するために使います。

リランチ・アシスト・ボール／リップ／2本のステアリングライン上にあるプラスチック製のボール。カイトをリランチするときリリーダーラインを握りやすくする働きがあるボールです。

フライングライン／カイトに付いてくる4本すべてのラインの総称です。このラインはカイト付属のブライダルラインとコントロールバー付属のリーダーラインを結んでいます。通常20-

30mの長さがあります。

ステアリングライン／カイトのトレーニングエッジにあるブライダルから出ている2本の外側に付いたフライングラインのこと。一方はカイトの左のウイングチップから、もう一方は右のウイングチップから伸びます。

デパワーライン／中央に接続されている2本のフライングラインで、一方は左のウイングチップから、他方は右のウイングチップのリーディングエッジから伸びます。このラインはカイトのデパワー機能に働きます。

ハーネス／コントロールバーにあるハーネスラインとライダーをつなぐ便利な道具です。これによってライダーは自分の体重を生かしてあまり力を使わずにカイトにぶら下がるようにリーディングすることができます。もっとも一般的なのはウエストハーネス (胴部に着用するタイプ) とシートハーネス (胴部に着用し足の付け根にベルトが付くタイプ) です。

カイトボーディング／水上でパワーカイトするスポーツの総称。

カイトサーフィン／水上でパワーカイトするスポーツの総称ですが、波のあるコンディションで行うものを指します。

ニュートラルポジション／ライダーの頭の上空にカイトがあるポジションです。ライダーがバーを高く水平に持ち上げると、カイトは自動的にニュートラルポジションに移動します。しかしこのポジションにカイトを保つことは難しく危険です。このポジションにあるカイトは安定していてパワーがないように感じられますが、地上にいるライダーをリフティングする可能性の高いポジションです。海上にいる時はボードを手繰り寄せている間に使いやすいポジションですが、陸上にいる時には極力このポジションを使用しないでください。ランシング後、素早く海上に出るためにこのポジションを避けることをお勧めします。陸上でこのポジションは大変危険です。

ニュートラルゾーン／ニュートラル・ポジションを中心に左右に幅を広げたエリアです。飛行を開始するためにカイトを風上方向に向けるためのエリアです。この位置からカイトは最も強いパワーを発生する状態に入ります。陸上やガスティなコンディションの時は特に、このゾーンにカイトがある場合は注意が必要です。

パワーゾーン／ライダーの前と斜め前方にあるカイトは、ニュートラル・ポジションやゾーンと比べ、パワフルです。このエリアにあるカイトは最もパワフルで、ライダーを引く力が強い状態です。このエリアにあるカイトはパワフルで危険を伴うので、練習中のライダーはできるだけこのエリアでのカイトの使用を避けましょう。カイトがこのゾーンにある場合、注意が必要です。

専門用語集

ランチング／パートナーの手からカイトを上空に上げるライダーの動作です。

セルフ・ランチング／パートナーなしでカイトをランチングするテクニック。ライダーの準備が完了するまで砂や重りをウイングチップに置いて行います。

リランチング／海面に落ちたカイトをライダーが操作し、再び上空に戻すこと。

ボディドラッグ／カイトを上空に上げながらボードを使わないテクニック。カイトの飛行を練習するために、ランチング後水際まで歩き、海上で身体をカイトにひっばってもらいます。カイトの飛行とリランチング、自己レスキューの方法を学びます。

ウォータースタート／ライダーが水中にいる状態から立ち上がり、ボードに乗ること。

ジャイビング／ライダーが乗っているボードの向きを変えること。スタボータックからポートタックに、またその反対に移ることを言います。

プレーニング／ボードが水面を滑走する状態。

ランディング／岸にいるパートナーの手元にライダーがカイトを操作して移動させる動作。

オーバーパワー／ライダーの能力や体重、体力、風のコンディションと比べ、カイトのパワーが強すぎる状態。

アンダーパワー／ライダーの能力や体重、体力、風のコンディションと比べ、カイトのパワーが弱すぎる状態。

リーチ／風向きに相対するカイトが動く方向。通常は風下に対して90から160度の方向。

ラル／風（ブロー）が抜けた箇所。ガスティなコンディションでブローが抜けた状態のことを言います。またカイトが完全にデパワーした状態にあることも言います。

ラフ／風が抜けた状態のカイトに起こる現象。

サイドショア／陸に向かって左もしくは右から吹く風。カイト・ボーディングに理想的な風向き。

オンショア／水面から陸に向かって垂直に吹く風。水際でカイトを使用するとき便利な風向き。

サイドオンショア／水面の左もしくは右から陸に向かって吹く風。オンショアとサイドショアの中間の風向き。水面でカイトを飛行させてもいい風向き。

オフショア／陸から水面に吹く風。水面でカイトを飛行させてはいけない風向き。

サイドオフショア／陸の左もしくは右から水面に向かって吹く風。オフショアとサイドショアの中間の風向き。この風向きの場合は水際でのみカイトを使用します。（初心者は沖に出てしまう可能性があるため、ライディングできない風向き）

ガスティ／風がコンスタントに吹かず、強弱がある状態。

ダウンウインド／風下。風が吹いていく方向。

アップウインド／風上。風が吹いてくる方向。

リーeward／カイト・ボーダーの風下側。

ウインドward／カイト・ボーダーの風上側。

ノット／スピードや風速の単位。海里に基づき計算される。

1ノット=1時間で1海里進む速さ。

1ノット=1.15mph.

MPH／スピードや風速の単位。マイルに基づいて計算される。1mph=1時間で1マイル進む速さ。

ビューフォート風力級／風が起こす諸現象（波の様子、煙りの流れなど）によって階級をつけたシステム。このシステムによって風の強さを表す機械はあまりない。（0=なぎ～12=台風）